IPCシリーズ

ボックスコンピュータ[®] BX-110nシリーズ用 ユーザーズマニュアル

株式会社コンテック

梱包内容をご確認ください

このたびは、本製品をご購入いただきまして、ありがとうございます。

本製品は次の構成となっています。

構成品リストで構成品を確認してください。万一、構成品が足りない場合や破損している場合は、お買い求めの販売店、または総合インフォメーションにご連絡ください。

登録カードは、新製品情報などをお客様にお知らせする際に必要なカードです。ご記入の上、 必ずご返送くださいますようお願いします。

IPC-SLIB-01(ドライバ&ユーティリティソフトセット)をご使用する場合は、ホームページより ダウンロードして、ご使用ください。

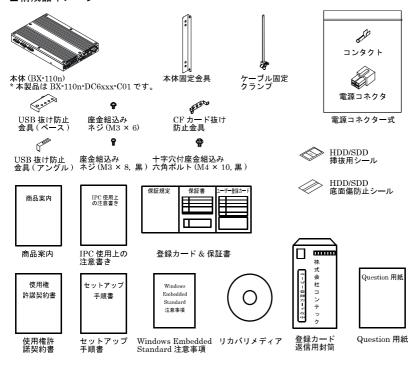
■構成品リスト

	BX-110n-DCx000	BX-110n-DCx121	BX-110n-DCx311	BX-110n-DCx124
I	-C01	-C01	-C01	-C01
名称	数量	数量	数量	数量
本体	1	1	1	1
本体固定金具	2	2	2	2
CF カード抜け防止金具	1	1	1 *1	1
USB 抜け防止金具(ベース)	1	1	1	1
USB 抜け防止金具(アングル)	4	4	4	4
座金組込みネジ(M3×6)	4	4	4	4
座金組込みネジ(M3×8, 黒)	6	6	6	6
十字穴付座金組込み 六角ボルト(M4×10, 黒)	4	4	4	4
電源コネクター式				
電源コネクタ	1	1	1	1
コンタクト	4	4	4	4
ケーブル固定クランプ	2	2	2	2
商品案内(本書)	1	1	1	1
IPC 使用上の注意書き	1	1	1	1
登録カード&保証書	1	1	1	1
登録カード返信用封筒	1	1	1	1
Question 用紙	1	1	1	1
使用権許諾契約書	_	1	1	1
セットアップ手順書	_	1	1	1
Windows Embedded Standard 注意事項	_	_	1	_
リカバリメディア	-	1	1	1
HDD/SDD 挿抜用シール	2	1	2	1
HDD/SDD 底面傷防止シー ル	4	2	4	2

^{*1} 本体に取り付け済み。

※ユーザーズマニュアルは、ホームページよりご確認ください。

■構成品イメージ



※構成品の有無、数量は構成品リストを参照ください。

ご注意

- (1) 本書の内容の全部、または一部を無断で転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店へご連絡ください。
- (4) 本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、前項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- (5) ボックスコンピュータ、BOXPCは、株式会社コンテックの登録商標です。
 Intel、Intel Atom、Intel Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel
 Corporation の商標です。Microsoft, Windowsは、米国 Microsoft Corporation の米国および
 その他の国における登録商標です。

その他、本書中に使用している会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

目次

	:::
目次	111
第1章 はじめに	1
概要	1
◆特長	
◆対応OS	
各種サービス、お問い合わせのご案内	
◆各種サービス ◆お問い合わせ	
▼40同Vでロ40で	
女主にこ使用いただくために	
◆BX-110nシリーズの注意事項	
第2章 システムリファレンス	9
仕様	9
電力管理機能	12
電力に関する要求	12
◆消費電力	
外形寸法	13
mo# 154	1.5
第3章 ハードウェアのセットアップ ◆CFカード抜け防止用固定金具の取り付け	15
◆CFガート扱り防止用固定金具の取り付け ◆本体固定金具の取り付け	
	15
◆FGの取り付け	
	16
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け	16 16 17
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用	
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け	
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用	
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用 ◆設置条件	
◆FGの取り付け	161718192323
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用 ◆設置条件 第4章 各部の名称および機能 各部の名称 ◆正面図 ◆側面図	16171819232323
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用 ◆設置条件 第4章 各部の名称および機能 各部の名称 ◆正面図 ◆側面図 ◆背面図	1617181923232323
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用 ◆設置条件 第4章 各部の名称および機能 各部の名称 ◆正面図 ◆側面図 ◆背面図 システム構成	1616171819232323
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用 ◆設置条件 第4章 各部の名称および機能 各部の名称 ◆正面図 ◆側面図 ◆背面図 システム構成 各部の機能	161617181923232323
◆FGの取り付け ◆ケーブルの固定 ◆ハードディスクの取り付け ◆標準品以外のハードディスクの使用 ◆設置条件 第4章 各部の名称および機能 各部の名称 ◆正面図 ◆側面図 ◆背面図 システム構成	1617181923232323252626

◆パワースイッチ:POWER SW	27
◆ライン出力インターフェイス:LINE OUT	27
◆マイク入力インターフェイス:MIC	27
◆シリアル-ATA:S-ATA1-2	
◆ギガビットイーサネット:LAN A - B	
◆USBポート:USB	
◆シリアルポートインターフェイス:SERIAL A - E	
◆ディスプレイインターフェイス: A-RGB	
◆CFカードコネクタ(Primary IDE接続):CF1 - 2	
◆RAS機能:RAS	
◆RASウォッチドッグタイマ	
◆汎用入出力とリモートリセット ◆BUS EXPANDER (PCIe)	
▼BUS EXPANDER (PCIe)	42
第5章 BIOSセットアップ	43
概要	
◆セットアップの開始	43
◆セットアップの操作	44
♦ Getting Help	
♦ In Case of Problems	
◆A Final Note About Setup	44
メインメニュー	45
◆設定項目	45
Standard CMOS Setup	
メインメニューの選択肢	
♦ IDEアダプタ	49
Advanced BIOS Features Setup	50
CPU Feature	51
AHCI Configurations	52
Hard Disk Boot Priority	54
♦ Virus Warning	55
Advanced Chipset Features Setup	61
PCI Express Root Port Function	63
VGA設定	64
Watch Dog Timer Setting	65
Integrated Peripherals	66
OnChip IDE Device	67
Onboard Device	70
Super IO Device	72
USB Device Setting	75
Power Management Setup	77

PnP/PCI Configuration Setup	83
IRQ n Resources	85
PCI Express関連アイテム	88
PC Health Status	89
Frequency/Voltage Control	91
Defaults Menu	92
Supervisor/User Password Setting	93
Exit Selecting	94
POST時のメッセージ	94
POST時の電子音	94
エラーメッセージ	95
CMOS、ROMクリアスイッチの位置と設定	98
第6音 付録	101
第6章 付録	101
メモリマップ	101
メモリマップ I/Oポートアドレス	
メモリマップ I/Oポートアドレス 割り込みレベル一覧	
メモリマップ I/Oポートアドレス 割り込みレベル一覧 POSTコード	
メモリマップ I/Oポートアドレス 割り込みレベル一覧 POSTコード SerialのI/Oアドレスとレジスタ機能	
メモリマップ	
メモリマップ	
メモリマップ	

第1章 はじめに

概要

本製品は、デュアルコアプロセッサ Intel® Atom D510 1.66GHzを搭載したファンレス組み込み 用パソコンです。わずか50mm*1の隙間にA4サイズ以下の面積で設置可能な省スペース設計で す。デュアルコア・DDR2 SDRAM 2GBの採用により、高い演算性能をファンレス・スピンド ルレス・スリットレスの高信頼性設計で実現しています。

高速デュアルコアプロセッサにより、コンパクトBOX-PCシリーズでは最高クラスの処理性能を有しています。2コア4スレッド対応により、複数タスクのアプリケーションをストレスなく処理することが可能です。

CPUやチップセットにEmbeddedタイプを採用。安定供給が可能なパーツの使用により、安心してご使用いただけます。さらに、自社カスタマイズBIOSを採用し、BIOSレベルでのサポートが可能です。

2.5インチSATA HDDを最大2台搭載でき、RAS機能を強化しています。WindowsXP Professionalインストールモデルでは、広温度範囲仕様のHDDを採用し、大容量データを扱うデータサーバーの装置組み込みに最適です。

*1 垂直設置の場合

本製品は、下記の4種を用意しています。

- ■Intel Atom Processor D510 1.66GHz搭載ベースモデル BX-110n-DC6000-C01(メモリ 2GB、OSなし、CFなし、HDDなし)
- ■Intel Atom Processor D510 1.66GHz搭載XP Proインストールモデル BX-110n-DC6121-C01 (メモリ 2GB、Windows XP Professional、CFなし、HDD 100GB)
- ■Intel Atom Processor D510 1.66GHz搭載WES2009インストールモデル
 BX-110n-DC6311-C01 (メモリ 2GB、Windows Embedded Standard 2009、CF 2GB、HDDなし)
- ■Intel Atom Processor D510 1.66GHz搭載W7 proインストールモデル BX-110n-DC6124-C01 (メモリ 2GB、Windows 7 Professional、CFなし、HDD 100GB)

◆特長

■HTテクノロジー対応・デュアルコア省電力CPU

デュアルコアプロセッサ Intel® Atom D510 1.66GHz・DDR2 SDRAM 2GBの採用により、高い 演算能力を有しています。また、2コア 4スレッドの並列処理に対応しており、通信・制御・ HMIなど複数アプリケーションの安定した同時並行処理を実現しています。



■大容量データを扱えるHDDを搭載可能

2.5インチSATA HDDを最大2台搭載可能で、大容量データを扱うデータサーバーの装置組み込みに最適です。

■周辺機器を自在に拡張。ツインCFカードスロット他の豊富なインターフェイス

1000BASE-T×2、USB2.0×4、シリアル(RS-232C×5、RS-485/422×1)などの拡張インターフェイスに加え、RASおよび汎用入出力3点を搭載しています。CFカードスロットを2スロット搭載しています。

■装置の小型化に貢献。設置面積A4サイズ以下の省スペース設計

設置面積A4サイズ以下の182(W)×270(D)×35(H)の省スペース設計、わずか50mm*1の隙間に設置が可能です。お客様の装置の小型化に大きく貢献、設置場所を選ばずデザイン性を損ないません。別売の取り付け金具により、VESA規格(75×75、100×100mm)に準拠した表示器に取り付け可能です。

*1 垂直設置の場合

■デュアルコアCPUの採用

デュアルコアCPU インテル(R) Atom(TM)プロセッサ D510 1.66GHzを採用。小型サイズにも関わらず、高いパフォーマンスを実現しています。

■保守点検業務を軽減するスリットレス・ファンレス設計

放熱スリット、CPUファンを廃したスリットレス・ファンレス設計です。ホコリや異物が侵入する心配がなく、経年劣化する部品の使用を極力抑えて保守点検業務の負担を大幅に軽減します。

■運用を省力化するリモート電源管理機能

指定時刻の自動システムアップ(Resume By Alarm)をサポート。例えば、開館時刻に合わせて 一斉に施設案内表示を始めるといった無人運用が可能です。また、ネットワーク経由で外部からシステムアップ(Wake On LAN)、モデム受信によるシステムアップ(Power On by Ring)をサポート。運用面で大幅な省力化が図れます。

■ケーブル抜けによるトラブルを回避する抜け防止金具や固定クランプを用意

USB抜け防止金具、ケーブル固定クランプにより、USBケーブルなどのロック機構がないコネクタの抜け防止やCFカード抜け防止用金具の装備によりCFカードの抜け防止をすることができ、不要なトラブルを回避できます。



■PCIボードやPCI Expressボードの増設が可能

別売のケーブル1本でPCI Express Cable方式の拡張シャーシを接続、最大13枚の拡張ボードを増設できます。

■10.8 - 31.2VDCのワイドレンジ電源に対応

10.8 - 31.2VDCのワイドレンジ電源に対応しており、さまざまな電源環境で使用可能です。

■組み込み用途に必要な安心設計

EEPROMによるCMOSデータの保持でバッテリ切れでもシステムの起動が可能です。 また、Windows Embedded Standardインストールモデルでは、ストレージにCFカードを採用した完全スピンドルレスを実現しています。OSのEWF機能 *2が使用でき、CFカードへの不要な書き込みを禁止することでCFカードの書き込み回数制限の不安を解消、また意図しないシステムの改変を防止することもできるなど、組み込み用途に必要な安心設計に配慮しています。

- *1 垂直設置の場合
- *2 EWF(Enhanced Write Filter)とは、Windows Embedded Standard特有の機能で、ディスクへの書き込みをRAMなどにリダイレクトして、実際のディスクへの書き込みを抑止して保護する機能です。

◆対応OS

- WindowsXP Professional (BX-110n-DCxx21-C01)
- Windows Embedded Standard 2009 (BX-110n-DCxx11-C01)
- Windows7 Professional (BX-110n-DCxx24-C01)

@ CONTEC -

各種サービス、お問い合わせのご案内

当社製品をより良く、より快適にご使用いただくために、次のサポートを行っております。

◆各種サービス

■ダウンロードライブラリ http://www.contec.co.jp/support/download/

最新のドライバやファームウェア、解説書など技術資料がダウンロードいただけます。

■FAOライブラリ https://contec.e-srvc.com/

よくあるご質問やトラブルシューティングをQ&A形式でご紹介しています。

■ナレッジベース http://www.contec-kb.com/

やりたいことが探せる、知識ベースの情報サイトです。接続したい機器、やりたいことなど、目的から解決策を探せます。お役立ち情報がいっぱいです。

■インターネット通販 http://www.contec-eshop.com/

当社が運営する、最短翌日納品の大変便利なネット直販サービスです。

■評価機無料貸出 http://www.contec.co.jp/support/request/

当社製品を無料でお試しいただけるサービスです。

当社ホームページから簡単にお申し込みができます。

◆お問い合わせ

■技術的なお問い合わせ (総合インフォメーション)

製品の使い方、初期不良、動作異常、環境対応など製品の技術的なお問い合わせに、専門技術スタッフが迅速かつ親切丁寧に対応します。

当社ホームページから http://www.contec.co.jp/support/contact/ お問い合わせください。

他に、E-mail: tsc@contec.jp、TEL: 050-3736-7861 でも対応しております。

■営業的なお問い合わせ

ご購入方法、販売代理店のご紹介、カスタム対応/OEM/ODMのご相談、システム受託開発のご依頼は当社支社(営業窓口)にお問い合わせください。または、E-mail (sales@contec.jp)にてもお問い合わせいただけます。TEL、FAX番号については、当社ホームページまたはカタログの裏表紙に記載しています。

■納期、価格、故障修理のご依頼、寿命部品交換のご依頼

当社製品取り扱いの販売代理店へお問い合わせください。

http://www.contec.co.jp/support/contact/

安全にご使用いただくために

次の内容をご理解の上、本製品を安全にご使用ください。

◆安全情報の表記

本書では、人身事故や機器の破壊をさけるため、次のシンボルで安全に関する情報を提供しています。内容をよく理解し、安全に機器を操作してください。

<u></u> 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う 危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う 可能性が想定される内容を示しています。
<u></u> 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想 定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

◆BX-110nシリーズの注意事項

■取り扱い上の注意

♠ 警告

- 電源ケーブルの取り付け、取り外しは必ず電源が供給されていないことを確認してから行ってください。
- 本製品の改造は行わないでください。
- 各ボード、ケーブルの抜き挿しは必ず電源を切ってから行ってください。
- 本製品は航空、宇宙、原子力、医療機器など高度な信頼性が必要な用途への使用を想定していません。これらの用途には使用しないでください。
- ・ 本製品を列車、自動車、防災防犯装置など安全性に関わる用途にご使用の場合、お買い求めの販売店または当社総合インフォメーションにご相談ください。
- 不適切なバッテリの交換は爆発の危険がありますので行わないでください。
- バッテリの交換が必要な場合は修理となりますので、販売店または当社支社(営業窓口)までお問い合わせください。
- ・ 使用済みバッテリを廃棄される場合には自治体の指示に従って適切に廃棄してください。

⚠ 注意

- 仕様の範囲を越える高温下や低温下、または温度変化の激しい場所での使用および保管は しないでください。
 - 例 ・直射日光の当たる場所
- 熱源の近く
- 極端に湿気の多い場所や、ほこりの多い場所での使用および保管はしないでください。内部に水や液状のもの、導電性の塵が入った状態で使用すると非常に危険です。このような環境で使用するときは、防塵構造の制御パネル等に設置するようにしてください。
- 仕様の範囲を越える衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- ・ 強い磁気や雑音を発生する装置の近くで使用しないでください。本製品が誤動作する原因となります。
- 薬品が発散している空気中や、薬品にふれる場所での使用および保管は避けてください。
- BOX-PCの汚れは、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジン、シンナーなど発揮性のものや薬品を用いて拭いたりしますと、塗装の剥離や変色の原因となります。
- ・ 本製品の筐体は、高温になる場合があります。火傷の恐れがありますので、動作時および 電源OFF直後は直接手を触れないようにしてください。また、この部分に手を触れる可能 性のある場所への設置はお避けください。
- いかなる原因によっても当社では記憶媒体の記録内容に関する保証は負いかねます。
- 拡張ボードの装着、取り外しや各コネクタの着脱の際には、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いた状態にしてください。
- ・ 本製品の電源はファイルの破損を防ぐため、必ずOS終了後に切ってください。
- 本製品を改造したものに対しては、当社は一切の責任を負いかねます。
- ・ 故障や異常(異臭や過度の発熱)に気づいた場合は、電源コードのプラグを抜いて、お買い 求めの販売店または当社総合インフォメーションにご相談ください。
- 周辺機器との接続ケーブルは、接地されたシールドケーブルを使用ください。
- CFやHDDの取り付け、取り外しは必ず電源が供給されてないことを確認してから行ってください。
- CFカードコネクタは、ホットプラグ非対応です。電源ON状態のまま、CFカードの抜き挿しはできません。本製品の電源ON状態でのCFの抜き挿しおよびCFへの接触は行わないでください。誤動作および故障の原因になります。
- 構成部品の寿命について
 - (1) バッテリ・・・内部カレンダ時計、CMOS RAMのバックアップにリチウム一次電池を使用しています。無通電時のバックアップ時間は25℃において10年以上です。
 - (2) CF ・・・・WES2009インストールモデル(BX-110n-DCxx11-C01)では、OS格納領域に CFカードを使用しています。推定故障率は、書き換え回数10万回、 MTBF500,000時間です。詳細については、第6章の「CFの寿命」項を参照 ください。

- (3) HDD ・・・・XPpro/7proインストールモデル(BX-110n-DCxx21-C01/BX-110n-DCxx24-C01) では、OS格納領域にHDDを使用しています。HDDの寿命は、30,000時間 (通電時間)または5年のいずれか早い方となります。MTBFは300,000時間です。これらは、下記の条件が守られた場合の基準値となります。
 - ・Read/Write/Seek時間:通電時間の20%以下
- * 消耗部品の交換につきましては修理扱い(有償)にて対応させていただきます。
- * 消耗部品の寿命については参考値であり、保証する値ではありませんことをご了承ください。

VCCI クラスA注意事項

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

FCC PART15 クラスA注意事項

NOTE

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference at his own expense.

WARNING TO USER

Change or modifications not expressly approved the manufacturer can void the user's authority to operate this equipment.

第2章 システムリファレンス

仕様

表2.1 機能仕様 <1/2>

型式		BX-110n-DCxxxx-C01			
CPU		Intel(R) Atom(TM) Processor D510 1.66GHz			
チップも	ヹット	Intel(R) ICH8M			
BIOS	OS Award製BIOS				
メモリ		2GB、200ピンSO-DIMMソケット×1、PC2-6400(DDR2 800)DDR2 SDRAM			
Video	Controller	Intel ICH8Mに内蔵			
	Video RAM	メインメモリと共用			
	Video BIOS	64KB(C0000H-CFFFFH)			
	ディスプレ イI/F	アナログRGB I/F×1(15ピンHD·SUBコネクタ×1)			
	システム解像度	640×480、800×600、1,024×768、1,152×864、1,280×600、1,280×720、1,280×768、1,280×960、1,280×1,024、1,400×1,050、1,440×900、1,600×900、1,680×1,050、1,920×1,080(1,677万色)			
Audio		HD Audio準拠 ライン出力:3.5φステレオミニジャック フルスケール出力レベル 1.5Vrms(Typ.)、Dual 50mW Amplifier マイク入力:3.5φステレオミニジャック フルスケール入力レベル 1.3Vrms(Typ.)			
Serial ATA I/F		2.5インチSATAハードディスク スロットイン方式×2、シリアルATA2.0準拠ポート BX-110n-DCxx21-C01/BX-110n-DCxx24-C01: HDD1は、SATA HDD実装済み (100GB、1パーティション)			
CFカードスロット		CF CARD Type I×2、ブート可能			
		BX-110n-DCxx11-C01: CF1は、CF実装済み(2GB、1パーティション)*1			
シリアル I/F		RS-232C(汎用): 5ch(SERIAL PORT A, B, C, D, E) 9ピンD-SUBコネクタ(オス) ボーレート: 50・115,200bps RS-485/422(汎用): 1ch [RASコネクタ内]			

^{*1:} CFの容量は、1GBを10億Byteで計算した場合の値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示される場合があります。

表2.1 機能仕様 <2/2>

型式		BX-110n-DCxxxx-C01			
LAN I/F		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T RJ-45コネクタ×2(Wake On LAN対応)			
	Controller	LAN-A: ICH8M内蔵コントローラ			
		LAN-B: Intel 82574Lコントローラ			
USB I/F	1	4ch (USB 2.0準拠)			
キーボー	-ド・マウス	-*2			
I/F					
汎用入出	i 力	15ピンD·SUBコネクタ(メス) [RASコネクタ]内			
		フォトカプラ絶縁型 入出力各3点			
		(ただし、出力1点はWDT外部出力と、入力1点はリモートリセットと切り替えて使用)			
RAS機能	50	15ピンD-SUBコネクタ(メス) [RASコネクタ]内WDT:			
		1sec - 255sec (Time upによって、RESET、 割り込み、または外部出力可)			
		リモートリセット: 外部からの入力信号			
PCI Exp	oress cable	PCI Express 1.0a(x1)準拠ポート			
		(18ピンPCI Express External Cablingコネクタ×1)			
ノードウ	フェアモニタ	CPU温度、ボード温度、電源圧の監視			
ウォッチ	- ドッグタイマ	ソフトウェアプログラマブル、255レベル(1‐255秒) タイムアップ時にリセット発生			
RTC/CM	IOS	リチウム電池バックアップ 電池寿命 : 10 年以上 RTC精度 $(25^\circ C)$: ± 3 分/月			
パワーマ	?ネージメント	BIOSによるパワーマネージメント設定、Power On by Ring/Wake On LAN機能、			
		PC98/PC99 ACPI パワーマネージメントサポート			
電源	定格入力電圧	12 · 24VDC *3			
	入力電圧範囲	10.8 · 31.2VDC			
	消費電力	12V 3.9A (Max.)、24V 2.1A (Max.)			
	外部機器	・CFカードスロット +3.3V: 1A(500mA×2)			
	供給電源容量	• USB I/F $+5V : 2A (500 \text{mA} \times 4)$			
外形寸法	ţ(mm)	182 (W)×270 (D)×35(H) (突起部を含まず)			
		HDD非搭載時:約2.4kg			
質量		- HDD 1スロット搭載時 : 約2.5kg			
		HDD 2スロット搭載時:約2.6kg			

^{*2:} キーボード/マウスは、USB I/Fを使用ください。

^{*3:} 電源ケーブルは3m以下を使用してください。

表2.2 設置環境条件

	型式		BX-110n-DCxxxx-C01		
	使用周囲温度 *4		0 - 45°C*6		
	保存周囲温度		-10 - 60°C		
	周囲湿度		10 · 90%RH(ただし、結露しないこと)		
	浮遊粉塵		特にひどくないこ	: Ł	
	腐食性ガス		ないこと		
		ライン	ACライン/±2kV	*5、	
環	環 ノイズ 信号ライン/±1kV (IECe		信号ライン/±1kV	(IEC61000-4-4 Level 3, EN61000-4-4 Level 3)	
境仕様	耐ノイズ性	静電 耐久	接触/±4kV (IEC61000·4·2 Level 2、EN61000·4·2 Level 2) 気中/±8kV (IEC61000·4·2 Level 3、EN61000·4·2 Level 3) HDD		
尔	耐振動性	掃引			
		耐久	HDD 非通電時	10 - 57Hz/片振幅0.15mm 57 - 150Hz/2.0G X、Y、Z方向40分(JIS C60068-2-6準拠、IEC60068-2-6準拠)	
	耐衝撃性		10G X、Y、Z方向11ms正弦半波(JIS C60068-2-27準拠、IEC60068-2-27準拠)		
	接地		D種接地(旧第3種接地)、SG-FG/導通		
	規格		VCCI クラスA、FCC クラスA、CE マーキング(EMC指令クラスA)		

^{*4:} 詳細は第3章の設置条件を参照してください。

^{*5:} AC-DC電源ユニットLDA100W-24-SN、LDA100W-12-SN(コーセル)を使用した場合です。

^{*6: 1000}BASE-Tを使用する場合の周囲温度は、0 · 40℃となります。

電力管理機能

- ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)およびレガシー方式の(APM)電力管理を サポートします。
- · ACPI v2.0対応
- · APM v1.2対応
- ・ ハードウェアの自動ウェイクアップに対応

電力に関する要求

本製品上の高速CPUにおいて信頼性の高い性能を得るには、システムはクリーンでありかつ安定した電源を必要とします。また、電源の品質はさらに重要です。最小10.8Vから最高31.2Vの範囲のDC電源が提供されていることを確認してください。

◆消費電力

一般的な構成において本製品は、少なくとも60W電源で動作するように設計されています。また、電源は以下の要求を満たさなければなりません。

・ 電源の立ち上がり時間: 2ms - 30ms

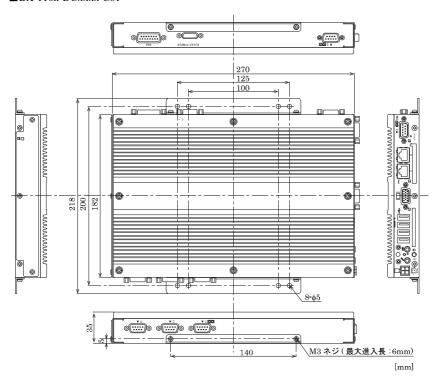
次の表は、DC電圧に対する電源の許容範囲を示しています。

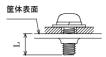
表2.3 DC電圧許容範囲

DC電圧	許容範囲
+ 12V - 24V	+ 10.8V - 31.2V

外形寸法

■BX-110n-DCxxxx-C01





- *1: 添付の本体固定金具を固定する際には、添付ネジ(M3x8)を使用してください。 それ以外の場合は、筐体表面からネジ先端までの侵入長さ(L)を6mm以下にしてください。
- *2: 筐体表面からネジ先端までの侵入長さ(L)を6mm以下にしてください。

図2.1 BX-110n-DCxxxx-C01外形寸法

第3章 ハードウェアのセットアップ

- ・ 作業前に電源がOFFになっていることを確認してください。
- 説明しているネジ以外は外さないようにしてください。

◆CFカード抜け防止用固定金具の取り付け

(1) CFカードを挿入後、添付の固定金具をネジ止めします。

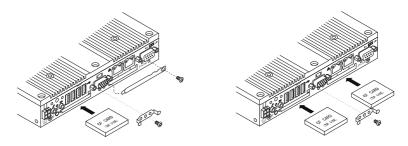


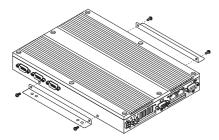
図3.1 CFカード抜け防止用固定金具の取り付け

⚠ 注意

- · CFカードは上面を上にして挿入してください。
- 指定以上の締め付けトルクでネジ止めすると、ネジ穴が壊れる場合があります。 適正なネジの締め付けトルクは、3-3.5kgf・cmです。

◆本体固定金具の取り付け

(1) 添付の本体固定金具をネジ止めします。 ネジの取り付け時は、無理な力を加えずに締めてください。



* 添付ネジ(M3×8)

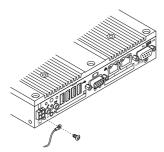
図3.2 本体固定金具の取り付け

⚠ 注意

指定以上の締め付けトルクでネジ止めすると、ネジ穴が壊れる場合があります。 適正なネジの締め付けトルクは、5-6 kgf·cmです。

◆FGの取り付け

(1) FGをネジ止めします。



* 添付ネジ(M3×8)

図3.3 FGの取り付け

注意

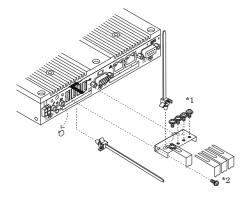
本製品のFG端子は、DC電源コネクタ(DC-IN)のGND信号と導通されています。 なお、導通状態を切り離しできません。

◆ケーブルの固定

本製品には、ケーブル固定用のケーブル固定クランプを添付しています。

■LINEOUTケーブル、USBケーブルの固定

(1) 本製品は、USB抜け防止金具にケーブル固定クランプを取り付ける穴を用意しております。LINEOUTケーブル、USBケーブルなどのロック機構がないコネクタにケーブル固定クランプを使用することによりコネクタ抜けを防止することができます。ケーブルの接続状況、配線方向に合わせてご使用ください。



*1: 添付ネジ(M3×6), *2: 添付ネジ(M3×8) **図3.4 固定クランプの取り付け**

(2) 下図は、ケーブル固定クランプの使用例です。コネクタにストレスが加わらないようにクランプで固定してください。



図3.5 固定クランプの使用例

◆ハードディスクの取り付け

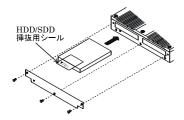
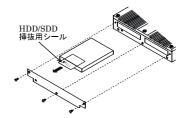
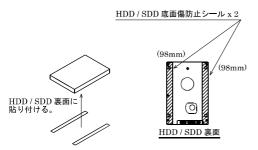


図3.6 ハードディスクの取り付け



◆標準品以外のハードディスクの使用

お客様で用意されたHDD/SDDを使用する際は、HDD/SDD底面傷防止シールとHDD/SDD挿抜用シールを貼り付けてからHDD/SDDを取り付けて下さい。



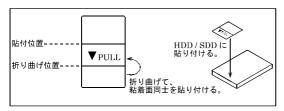


図3.7 HDD/SDD底面傷防止シールとHDD/SDD挿抜用シールの貼り付け図

◆設置条件

本体の周囲は、高温発熱や排気を伴う機器と距離を開けるなどの対策を行い、周囲温度が設置環境条件の範囲内に収まるようにしてください。

■BX-110n-DCxxxx-C01

- 0-+45℃使用周囲温度時の設置方向:(1)水平設置、(2),(3),(4),(5)垂直設置
- 0-+40℃使用周囲温度時の設置方向:上記以外のすべて(斜め設置も含む)

1000BASE-T使用時

0-+40℃使用周囲温度時の設置方向: すべて(斜め設置も含む)

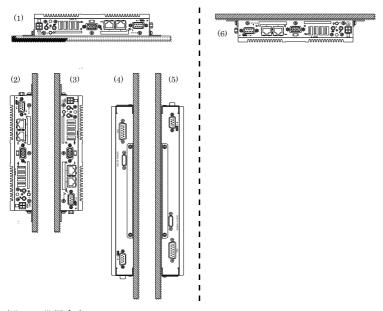
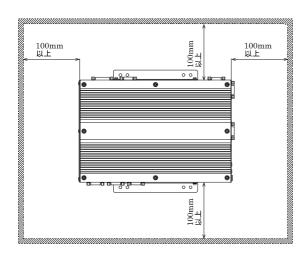


図3.8 設置方向 < BX-110n-DCxxxx-C01 >

周囲温度が使用範囲内であっても、高温発熱する機器が近くにある場合は放射(輻射)の影響を受け本体の温度が上昇し動作不良を起こす可能性がありますのでご注意ください。

■周囲と本体の距離(参考)

· BX-110n-DCxxxx-C01



垂直設置の場合



水平設置の場合

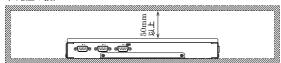


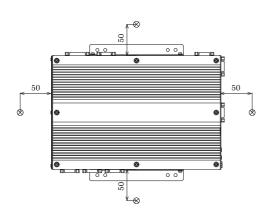
図3.9 周囲と本体の距離 < BX-110n-DCxxxx-C01 >

クーラーなどで内部温度の調整が可能な場合を除き、本製品を完全密閉された空間への設置は避けてください。長時間の使用による温度上昇で製品の動作不良などのトラブルを引き起こす可能性があります。

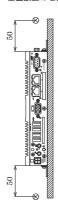
■周囲温度について

本製品では以下のように複数の測定ポイントの温度を周囲温度としています。ご使用の際はその測定ポイントの温度がすべて仕様温度を超えないように空気の流れを調整してください。

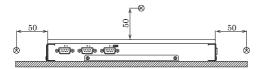
· BX-110n-DCxxxx-C01



垂直設置の場合



水平設置の場合



[mm]

図3.10 周囲温度 < BX-110n-DCxxxx-C01 >

第4章 各部の名称および機能

各部の名称

◆正面図

■BX-110n-DCxxxx-C01

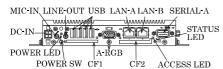


図4.1 各部の名称 <1/3>

◆側面図

左側面

■BX-110n-DCxxxx-C01

SERIAL E SERIAL D SERIAL C

図4.1 各部の名称 <2/3>

◆背面図

■BX-110n-DCxxxx-C01

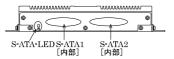


図4.1 各部の名称 <3/3>

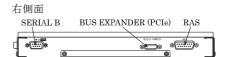


表4.1 各部の機能

名称	機能		
POWER-SW	電源パワースイッチ		
POWER LED	電源ON表示LED		
ACCESS LED	IDEディスクアクセス表示LED		
STATUS LED	ステータスLED		
S-ATA LED	S・ATAディスクアクセス表示LED		
DC-IN	DC電源入力コネクタ		
LINE OUT	ライン出力(3.5Ф PHONE JACK)		
MIC IN	マイク入力(3.5Ф PHONE JACK)		
LAN A	Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T RJ-45コネクタ		
LAN B	Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T RJ-45コネクタ		
USB	USBポートコネクタ×4		
SERIAL A	シリアルポート1コネクタ(9ピンD·SUB・オス)		
SERIAL B	シリアルポート2コネクタ(9ピンD-SUB・オス)		
SERIAL C	シリアルポート3コネクタ(9ピンD·SUB・オス)		
SERIAL D	シリアルポート4コネクタ(9ピンD·SUB・オス)		
SERIAL E	シリアルポート5コネクタ(9ピンD·SUB・オス)		
A-RGB	ディスプレイ(15ピンD-SUB・メス)		
CF1	CFカードスロット(IDE接続マスター)		
CF2	CFカードスロット(IDE接続スレーブ)		
S-ATA1	HDDスロット(Serial-ATA)		
S-ATA2	HDDスロット(Serial-ATA)		
RAS	RAS機能およびRS-485コネクタ(15ピンD-SUB・メス)		
BUS EXPANDER (PCIe)	PCI Express Cableコネクタ(18ピンPCI Express External Cabling・メス)		

システム構成

■BX-110n-DCxxxx-C01

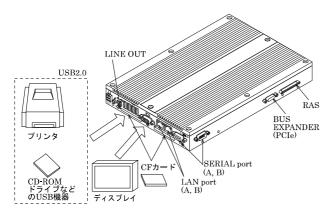


図4.2 システム構成図 < BX-110n-DCxxxx-C01 >

各部の機能

♦LED: POWER, ACCESS, STATUS

本製品の前面には3つのLEDが装備されています。

表4.2 LEDの表示内容

LEDの名称	状態	表示内容		
POWER LED	消灯	本製品の電源がOFF状態であることを示します。		
	点灯(緑)	本製品の電源がON状態であることを示します。		
ACCESS LED	点灯(橙) IDEデバイスがアクセス状態であることを示します。			
STATUS LED	消灯	ユーザアプリケーションからLEDの動作を制御できます。*1		
	点滅、点灯(赤)	ユーザアプリケーションからLEDの動作を制御できます。*1		
S-ATA LED	点灯(橙)	S-ATAデバイスがアクセス状態であることを示します。		

^{*1} STATUS LEDを制御するAPIが利用可能です。詳細は、当社ホームページ[IPC·SLIB·01]内の¥RasUtility¥Samplesに掲載されているAPI説明ファイルmtdll j.chmを参照ください。

◆DC電源入力コネクタ:DC-IN

電源を接続する場合には、下記の電源を必ず使用ください。

定格入力電圧 : 12 - 24VDC 入力電圧範囲 : 10.8 - 31.2VDC

電源容量 : 12V 3.9A以上、24V 2.1A以上

表4.3 DC電源コネクタ

コネクタ型式	9360-04P(ALEX製)			
	ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
4 3	4	12 - 24V	3	12 - 24V
	2	GND	1	GND

■ケーブル側適合コネクタ

ハウジング: 9357-04(ALEX製)または5557-04R(MOLEX製)

コンタクト: 4256T2-LF(AWG18-24)(ALEX製)または5556(AWG18-24)(MOLEX製)

■電源立ち上がり時間

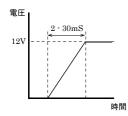


図4.3 電源立ち上がり時間のグラフ



◆パワースイッチ:POWER SW

電源パワースイッチを装備しています。

◆ライン出力インターフェイス:LINE OUT

ライン出力用のコネクタを備えています。ヘッドホンやアンプ付きスピーカが接続可能です。

◆マイク入力インターフェイス:MIC

マイク入力用のコネクタを備えています。音声入力のためのマイクが接続可能です

■オーディオドライバ

マイク入力、ライン出力インターフェイスを使用するには、オーディオドライバが必要です。 各OSに対応したオーディオドライバは、当社ホームページ[IPC-SLIB-01]よりインストールしてください。(最新版のIPC-SLIB-01に関する情報は、当社ホームページで確認ください。)

◆シリアル-ATA:S-ATA1-2

シリアルATA2.0準拠のコントローラを備えています。 オンボード上のコネクタに2.5インチSATAハードディスクを接続できます。

◆ギガビットイーサネット:LAN A - B

ギガビットイーサネットを2ポート装備しています。

・ネットワーク形態 : 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T

・伝送速度* : 1000M/100M/10M bps・ネットワーク経路長最大 : 100m/セグメント

・コントローラ : ICH8M内蔵(LAN-A)、Intel 82574L(LAN-B)*1000Mbpsで動作するには、カテゴリ5eケーブルを使用ください。

表4.4 ファーストイーサネットコネクタ

	ピン番号	Function	
TAN Transmit Link LED		100BASE-TX	1000BASE-T
	1	TX+	TRD+(0)
	2	TX-	TRD-(0)
	3	RX+	TRD+(1)
	4	N.C.	TRD+(2)
	5	N.C.	TRD-(2)
	6	RX-	TRD-(1)
	7	N.C.	TRD+(3)
	8	N.C.	TRD-(3)

ネットワークの状態表示用LED

右LED : リンクLED

正常接続 : 緑色点灯、動作: 緑色点滅

左LED : 動作LED

10M:Off、100M:緑色、1000M:橙色

■LANドライバ

各OSに対応したLANドライバは、当社ホームページ[IPC-SLIB-01]よりインストールしてください。(最新版のIPC-SLIB-01に関する情報は、当社ホームページで確認ください。)

⚠ 注意

1000BASE-T使用時の動作保証温度にご注意ください。詳細は第3章の設置条件を参照してください。なお、0-45 $^{\circ}$ Cの環境下にて使用する場合は、100BASE-TXまたは10BASE-Tに設定してください。

◆USBポート:USB

USB 2.0のインターフェイスを4ch装備しています。

表4.5 USBコネクタ

	ピン番号	信号名
	1	USB_VCC
	2	USB-
	3	USB+
	4	USB_GND

◆シリアルポートインターフェイス:SERIAL A - E

■ SERIAL A, B, C, D, E(RS-232C $\mathring{\pi}$ – $\mathring{\vdash}$)

ボーレート115,200bps(Max.)、送信専用データバッファ16byteの RS-232C準拠のシリアルポートを5ch備えています。各ポートは、独立にBIOSセットアップ(第5章参照)によってI/Oアドレス、割り込みおよび未使用を設定できます(他のデバイスと同一のI/Oアドレス、割り込みは設定できません)。

I/Oアドレスの詳細とレジスタ機能については、第6章 付録 I/Oポートアドレスを参照ください。

表4.6 SERIAL A, B, C, D, E I/Oアドレス、割り込み

, 110 SERVICE 11, 2, 6, 2, 2 2 6, 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
SERIAL	I/Oアドレス	割り込み
A	3F8h - 3FFh	IRQ 4
В	2F8h - 2FFh	IRQ 3
С	2A8h - 2AFh	IRQ 6
D	2B0h - 2B7h	IRQ 7
E	2C0h - 2C7h	IRQ 10
RS-422/485 Port	2C8h - 2CFh	IRQ 11
T.P Port(システム予約)*1	2A0h - 2A7h	IRQ 5

^{*1} 出荷時設定はDisableとなります。将来の機能拡張のために予約されたデバイスのため利用できません。 I/Oアドレスは固定されており変更できません。

表4.7 シリアルポートコネクタ

本体使用コネクタ 9ピンD·SUB(オス)					
1 5 No.4-40UNC インチナット 6 9					
ピン番号	信号名	意味	方向		
1	CD	キャリア検出	入力		
2	RD	受信データ	入力		
3	$^{\mathrm{TD}}$	送信データ	出力		
4	DTR	データターミナルレディ	出力		
5	GND	信号グラウンド			
6	DSR	データセットレディ	入力		
7	RTS	送信要求	出力		
8	CTS	送信可	入力		
9	RI	被呼表示	入力		

表4.8 RS-422/485ポートコネクタ(RASコネクタ内)

ピン番号	信号名	意味
2	TX +	送信データ+
10	TX ·	送信データー
3	RX +	受信データ+
11	RX -	受信データー

▼参照

RASコネクタの詳細については「表4.12 RASコネクタ」を参照してください。

■RS-422/RS-485仕様

伝送方式 : RS-422/RS-485準拠調歩同期シリアル伝送 半二重/全二重

ボーレート : 50 – 115,200bps(プログラマブル)

· 信号延長可能距離 : 1.2km (Max.)

■RS-485使用時の終端抵抗

BIOSセットアップメニューで設定します。出荷時は終端抵抗なしの設定となっています。 詳細は第5章の「Onboard Device」の項目を参照してください。

■半二重モード時の送信データコントロール

半二重モード時では送信データの衝突を避けるために、送信バッファのコントロールを行う必要があります。BOX-PCではRTSを使用しており、モデムコントロールレジスタのbit1で制御します。RS-422/485(Serial port D)についてのみ、ポートアドレス4007hのレジスタ設定によって、送受信のゲート制御が可能です。詳細は第4章の「汎用入出力とリモートリセット」の項目を参照してください。

モデムコントロールレジスタ

(設定I/Oアドレス+4H) bit 1 : 0 ... RTSがHigh (送信ディセーブル)

1... RTSがLow (送信イネーブル)

◆ディスプレイインターフェイス: A-RGB

ディスプレイ接続用のコネクタを備えています。コネクタ名はA-RGB (HD-SUB 15P)です。

表4.9 ディスプレイコネクタ

コネクタ形式	HD-SUB 15ピン (FEMALE)						
5 1 6 No.4-40UNC インチナット							
ピン番号	信号名	ピン番号	信号名				
1	RED	9	+5V				
2	GREEN	10	GND				
3	BLUE	11	N.C.				
4	N.C.	12	DDCDATA				
5	DETECT *1	13	HSYNC				
6	GND	14	VSYNC				
7	GND	15	DDCCLK				
8	GND						

^{*1:}ディスプレイ検出ピンとして使用しています。

接続可能な液晶ディスプレイについては、第8章「オプション品一覧」を参照ください。

■ディスプレイドライバ

各OSに対応したディスプレイドライバは、製品添付CD-ROM[IPC-SLIB-01]よりインストールしてください。(最新版のIPC-SLIB-01に関する情報は、当社ホームページで確認ください。)

⚠ 注意

アナログディスプレイ使用時、WindowsのMS-DOSのフルスクリーン表示が正常表示できないことがあります。

原因としては、画面設定によりWindowsとMS-DOS(フルスクリーン表示)の周波数と解像 度が同じで、表示パラメータが異なるためです。ディスプレイでは、1つの周波数、解像 度に対して1つのパラメータしか記憶できないためWindowsとMS-DOS画面のどちらかしか 正常表示できなくなります。

このような場合は、Windowsの解像度または表示周波数を変更して、MS-DOS表示と同じにならないようにしてください。

◆CFカードコネクタ(Primary IDE接続):CF1 - 2

CFカードコネクタは、CFカード(Type I: メモリ カード専用)を接続できます。 CFカードコネクタは、ホットプラグ非対応です。電源ON状態のまま、CFカードの抜き挿しはできません。本製品の電源ON状態でのCFの抜き挿しおよびCFへの接触は行わないでください。誤動作および故障の原因になります。CFカードを抜き挿しするときは、必ず電源をOFFにしアクセスLEDが消灯したことを確認してから行ってください。

表4.10 CFカードコネクタ

使用コネクタ 50芯ヘッダタイプ(1.27mmピッチ)									
1 25 26 50									
ピン番号	信号名	方向	ピン番号	信号名	方向				
1	GND		26	GND					
2	DD3	入出力	27	DD11	入出力				
3	DD4	入出力	28	DD12	入出力				
4	DD5	入出力	29	DD13	入出力				
5	DD6	入出力	30	DD14	入出力				
6	DD7	入出力	31	DD15	入出力				
7	CS0-	出力	32	CD3-	出力				
8	GND		33	GND					
9 GND			34	DIOR-	出力				
10	10 GND		35	DIOW-	出力				
11	GND		36	+3.3V					
12	GND		37	INTRQ	入力				
13	+3.3V		38	+3.3V					
14	GND		39	CSEL-	出力				
15	GND		40	N.C					
16	GND		41	RESET-	出力				
17	GND		42	IOCHRDY	入力				
18	DA2	出力	43	DDRQ	入力				
19	DA1	出力	44	DDACK-	出力				
20	DA0	出力	45	DACT-	出力				
21	DD0	入出力	46	PDIAG-	出力				
22	DD1	入出力	47	DD8	入出力				
23	DD2	入出力	48	DD9	入出力				
24	N.C		49	DD10	入出力				
25	GND		50	GND					

◆RAS機能:RAS

RAS機能として、ウォッチドッグタイマ、リモートリセット、および汎用入出力があります。

表4.11 RASコネクタ

	15ピンD-SUE	3 (メス)				
		3 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				
ピン番号	信号名	機能				
1	N.C.	_				
2	TX+	RS-485送信ライン				
3	RX+	RS-485受信ライン				
4	NCOM	PO2専用のマイナスコモン				
5	PO0	汎用出力				
6	NCOM	汎用出力マイナスコモン				
7	PI1	汎用入力				
8	PCOM	汎用入力プラスコモン				
9	GND	外部スピーカグランド				
10	TX-	RS-485送信ライン				
11	RX-	RS-485受信ライン				
12	PO2/WDT	汎用出力、またはウォッチドックタイマアラーム出力				
13	PO1	汎用出力				
14	PI2/IRQ	汎用入力、または割り込み入力				
15	PI0	汎用入力				

⚠ 注意

4ピンのNCOM(PO2専用のマイナスコモン)と6ピンのNCOM(PO0、PO1共有のマイナスコモン)は電気的に分離されています。

◆RASウォッチドッグタイマ

ウォッチドッグタイマの起動は、I/Oポートアドレス4002hへA5を出力することで行われます。このとき設定されたタイムアウト時間内に、再度同ポートへA5を出力することで、ウォッチドッグタイマは再トリガされます。もしタイムアウトが発生すれば、4004hポートの設定によって、リセットまたは割り込みを発生、または4004hポートの設定により外部へアラームを出力します。

タイムアウト時間は、WDTカウンタ用ポート(4003h)のタイマ値設定によって、1sec - 255secの 範囲で設定可能です。

ウォッチドッグタイマは、4002hポートを読み込むことによって、停止します。また同時に、アラームアウト出力も解除されます。

アラームアウトは、RASコネクタのPO2/WDT(12ピン)から出力され、リセット時には解除されます。

アラームアウト出力は、BIOSセットアップ(第5章参照)によりBIOS起動時、ウォッチドッグタイマスタート時、またはウォッチドッグタイマタイムアップ時の状態を設定できます。

■仕様

· 設定時間 : 1sec - 255sec

・ 割り込みまたはリセット : タイムアップ時リセットまたは割り込み発生(ポート設定)

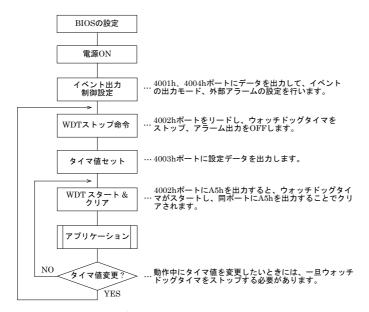
・ 外部アラーム出力 : フォトカプラ絶縁オープンコレクタ出力(出力状態はソフト

ウェアにより設定)詳細仕様は汎用入出力の仕様を参照して

ください。

・ I/Oアドレス : 4000h - 4007h (RASポート)

■使用方法



*WDT: ウォッチドッグタイマ

図4.4 ウォッチドッグタイマの使用方法

使用例: 9イムアップ値を15 \sec 9イムアップ時のイベントにIRO5を設定する場合。

Out 4004h 01h : WDTタイムアップ時のイベントにIRQ5を設定

In 4002h : WDTタイマをストップ&アラーム解除

Out 4003h 0Fh : WDTタイムアップのタイマ値を15secに設定

Out 4002h A5h : WDTタイマをスタート&クリア

In 4002h : WDTタイマをストップ&アラーム解除

* 4001h (bit4-6):アラームアウト出力制御

D7				D3				_
	WD_S1	WD_S0	PO2_M	RESET	PIM2	PIM1	PIM0	R/W (デフォルト値 : XXXX0000b)

図4.5 アラームアウト出力制御用ポート(4001h)

PO2 M: PO2/WDTピンの出力設定

0: RASコネクタのPO2/WDT(12)信号をPO2(汎用出力)に設定します。 1: RASコネクタのPO2/WDT(12)信号をアラームアウトに設定します。

表4.12 WD S1、WD S0: アラームアウト出力状態の設定

1	八寸.12	11D _51	15 WD_50 . 7	7 7 7 1	四八八四八四八	~			
			外部アラーム出力の状態						
	WD_S1	WD_S0	電源OFF時	BIOS起動時	WDT スタート時	WDT タイムアップ時			
	0	0	OFF	OFF	OFF	ON			
	1	0	OFF	OFF	ON	OFF			
	1	1	OFF	ON	ON	OFF			
	0	1	OFF	ON	OFF	ON			

*4002h:ウォッチドッグタイマ制御

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0	_
								R/W

図4.6 WDT制御用ポート(4002h)

R: ウォッチドッグタイマストップ&アラーム解除

読み込んだデータは不定です。

W: ウォッチドッグタイマスタート&クリア

A5hの書き込みでウォッチドッグタイマをスタート&クリアします。

*4003h:ウォッチドッグタイマカウンタ

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0	_
Т7	Т6	T5	T4	Т3	T2	T1	T0	w

図4.7 WDTカウンタ用ポート(4003h)

W : ウォッチドッグタイマカウントデータ書き込み

ウォッチドッグタイマカウンタのタイムアップ時間データの書き込みを行います。

 $\begin{array}{cccc} 1 sec & \rightarrow & 01h \\ 8 sec & \rightarrow & 08h \\ 15 sec & \rightarrow & 0Fh \\ 30 sec & \rightarrow & 1Eh \end{array}$

*4004h: イベント出力制御

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0	_
				RESET	WM2	WM1	WM0	R/W (デフォルト値: XXXX0000b)

図4.8 イベント出力制御用ポート(4004h)

表4.13 WM2 - WM0: 割り込み出力モード

WM2	WM1	WM0	WDTエラー時の割り込み出力
0	0	1	ウォッチドックタイマタイムアップ時にIRQ5に出力します。
0	1	0	ウォッチドックタイマタイムアップ時にIRQ7に出力します。
0	1	1	Reserved ※この値は設定しないでください。
1	0	0	ウォッチドックタイマタイムアップ時にIRQ10に出力します。
1	0	1	ウォッチドックタイマタイムアップ時にIRQ11に出力します。
1	1	0	ウォッチドックタイマタイムアップ時にNMIに出力します
Others			ウォッチドックタイマタイムアップ時の出力を禁止します。

表4.14 RESET: リセット出力モード

RESET	WDTエラー時のRESET出力
0	ウォッチドックタイマタイムアップ時のRESET出力を禁止します。
1	ウォッチドックタイマタイムアップ時のRESET出力を許可します。

(注意) WDTタイムアップ時のアラームアウト出力は、イベント出力制御用のポートの設定に無関係に出力されます。

* 4005h: RASステータスポート

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0	_
							WDT	R (デフォルト値: XXXXXXX0b)

図4.9 RASステータスポート(4005h)

R: RASステータスポート

WDT:ウォッチドッグタイマステータス

ウォッチドッグタイマのステータスです。このビットはウォッチドッグタイマ

を停止(ポート4002hをリード)することでクリアされます。

0: ウォッチドッグタイマが停止中、またはカウント中

1: ウォッチドッグタイマがタイムアップ

◆汎用入出力とリモートリセット

汎用の絶縁型入出力を各3点搭載しています。入力は、割り込み入力またはリモートリセット 入力としても使用可能です。

■仕様

【入力部】

・ 入力仕様 : フォトカプラ絶縁による電流駆動入力

入力抵抗
 : 4.7kΩ

・ 入力信号数 : 3点[内1点はリモートリセット・割り込み入力に使用可能

(bit2<固定>)]

・ 入力保護回路 : 逆接続保護ダイオード付き

入力応答時間 : 100 μ sec以内

外部回路電源: 12 - 24VDC(±10%)

【出力部】

・ 出力仕様 : フォトカプラ絶縁によるオープンコレクタ出力

出力定格 : 最大30VDC 100mA

・ 出力信号点数 : 3点[内1点はウオッチドッグカウンタのアラーム出力に使用可

(bit2<固定>)]

出力応答時間 : 300 μ sec以内

【共通】

I/Oアドレス : 4000h、4001h

■使用方法

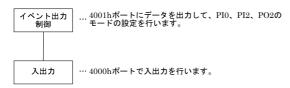


図4.10 汎用入出力とリモートリセットの使用方法

■I/Oアドレスと命令

* 4000h: 汎用入出力

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0	_
					PIO2	PIO1	PIO0	R/W

図4.11 汎用入出力用ポート(4000h)

R: PIO、PI1、PI2のデータを読み出します。

W: PO0、PO1、PO2に出力するデータをセットします。

* 4001h (bit0-3): PI2/IRQ(14)イベント入力制御

	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
I		WD_S1	WD_S0	PO2_M	RESET	PIM2	PIM1	PIM0

図4.12 イベント入力制御用ポート(4001h)

表4.15 PIM2 - PIM0:割り込み出力モード

RIM2	RIM1	RIM0	PI2/IRQ(14)の割り込み入力
			D. C + + + + D. D. C. A. C.
0	0	1	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号をIRQ5に入力します。
0	1	0	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号をIRQ7に入力します。
0	1	1	Reserved ※この値は設定しないでください。
1	0	0	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号をIRQ10に入力します。
1	0	1	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号をIRQ11に入力します。
1	1	0	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号をNMIに入力します。
Others			RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号の割り込み設定を禁止します。

表4.16 RESET: リセット入力モード

RESET	PI2/IRQ(14)のRESET入力
0	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号のリモートリセット入力機能を禁止します。
1	RASコネクタのPI2/IRQ(14)信号のリモートリセット入力機能として使用します。

⚠ 注意

rsvで示されたbitはシステムで使用していますので、設定値を変更しないでください。

* 4007h: RS-485の送受信制御

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0		
				RE_GATE	TE_GATE	TE_SEL	rsv*	R/W	(デフォルト値: XXXX0000b)

図4.13 RS-485の送受信制御ポート(4007h)

TE_SEL : RS-485の送信Enable信号の選択。

0 : RTS信号をRS-485の送信Enable信号に設定します。(出荷時設定)

1 : TE_GATEの値をRS-485の送信Enable信号に設定します。

TE_GATE: RS-485の送信Enable信号。TE_SELの値が「1」の場合のみ有効。

0 : RS-485の送信 Enable (出荷時設定)

1 : RS-485の送信 Disable

RE_GATE: RS-485の受信Enable信号。

0: RS-485の受信 Enable (出荷時設定)

1 : RS-485の受信 Disable

⚠ 注意

rsvで示されたビットはシステムで使用していますので変更しないでください。

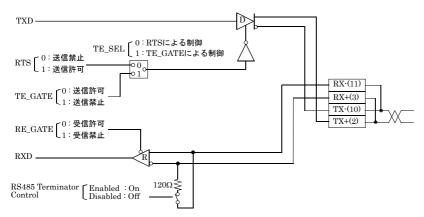


図4.14 半二重接続方法

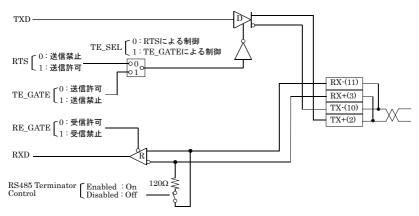


図4.15 全二重接続方法

■外部入出力回路

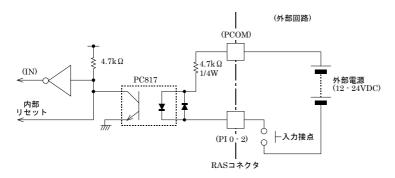


図4.16 入力回路

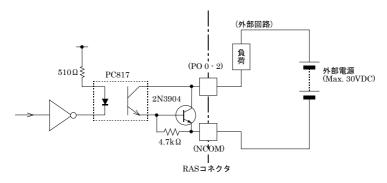


図4.17 出力回路

♦BUS EXPANDER (PCIe)

PCI Express cableポートを備えています。

当社製PCI Express Cable方式の拡張シャーシと別売のCable Express用ケーブル CB-CE-1または CB-CE-3で接続することにより、当社製の豊富な計測制御ボードを使用できます。

表4.17 PCI Express cableコネクタ

コネクタ型	일式		18ピン ()	(ス)				
1 9 No.4-40UNC インチネジ								
ピン番号	信号名	機能	ピン番号	信号名	機能			
1	Tx+	PCI Express送信ライン	10	GND	グランド			
2	Tx-		11	CPERST#	リセット信号			
3	Reserved	_	12	N.C.	_			
4	N.C.	_	13	CLK+	PCI Expressクロック			
5	GND	グランド	14	CLK-				
6	Reserved	_	15	N.C.	_			
7	Reserved	_	16	N.C.	_			
8	N.C.	_	17	RX+	PCI Express受信ライン			
9	GND	グランド	18	RX-				

注意

- ・ PCI Express cableは32bit仕様です。ADAPTEC社39160SCSIボードやIntel社Pro1000/MTネットワークボードなど64bit/32bit兼用ボードでは動作検証を行っておりません。
- ・ PCI Expressバスはx1仕様です。x1以上の通信速度を要求されるもの(x16など)は、使用できません。
- · Reservedには何も接続しないでください。故障の原因になります。

第5章 BIOSセットアップ

概要

本章では、FLASH ROM BIOSに組み込まれているAward社のセットアッププログラムについて 説明します。セットアッププログラムを用いて、システムの基本設定を変更できます。この設 定情報はバッテリバックアップされたRAMに保存されるため、コンピュータの電源をOFFに した後もセットアップ情報は保持されます。

以下では、セットアップを用いたシステム構成の手順について説明します。

◆セットアップの開始

コンピュータの電源を入れると、Award BIOSが直ちに開始されます。BIOSは、CMOS RAMに保存されているシステム情報を読み出し、システムの確認と設定プロセスを開始します。このプロセスが完了すると、BIOSはディスク上のオペレーティングシステムを検索して起動し、オペレーティングシステムに一切の制御を引き渡します。

BIOSによる制御が有効になっている間、以下の2通りの方法でセットアッププログラムを開始できます。

- システムに電源を入れた直後、を押します
- POST(power On Self-Test)中、画面の最下部に"Press DEL to enter SETUP"というメッセージが表示された時点でキーを押します。

Press DEL to enter SETUP.

キーを押す前に上のメッセージが消えてしまった場合、セットアップにアクセスするには、コンピュータの電源をOFFにした後ONにするか、システム本体の"RESET"ボタンを押して、システムをリスタートする必要があります。<Ctrl>、、<Alt>、、<Delete>キーを同時に押してリスタートすることもできます。キーを押すタイミングを誤ると、システムはブートされず、次の操作を促すエラーメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

◆セットアップの操作

通常、矢印キーを用いて項目間を移動し、<Enter>を押して選択します。項目値を変更するにはPageUpおよびPageDownキーを使用します。<FI>を押すとヘルプが表示され、<Esc>を押すとセットアップが終了します。セットアッププログラム操作のキーボード対応表を以下に示します。

表5.1 セットアップの操作

+-	機能
上矢印	前の項目に移動する
下矢印	次の項目に移動する
左矢印	左の項目に移動する(メニューバー)
右矢印	右の項目に移動する(メニューバー)
ESC	メインメニュー:変更を保存せずに終了します。 サブメニュー:現在のページを終了し、次レベルのメニューを表示します。
Move Enter	選択した項目に移動します。
PgUp +-	数値を増分または変更します。
PgDn +-	数値を減分または変更します。
++-	数値を増分または変更します。
-+-	数値を減分または変更します。
ESC+-	メインメニュー: CMOSへ変更を保存せずに終了します。 Page SetupメニューおよびOption Page Setupメニュー: 現在のページを終 了し、メインメニューに戻ります。
F1+-	キー機能のヘルプ画面起動します。
F5 + —	CMOSから前の設定をロードします。
F6 + —	BIOSデフォルトテーブルからフェールセーフデフォルトをロードします。
F7 + —	BIOSデフォルトテーブルから最適デフォルトをロードします。
F10 + —	すべてのCMOS変更を保存し、終了します。

♦Getting Help

FIを押すと、表示されている項目に関する適切なキーまたは選択肢が、小さなポップアップウィンドウに表示されます。Helpウィンドウを終了するには、<Esc>またはFIキーを再び押します。

♦In Case of Problems

セットアップでシステムを変更してそれを保存した後にコンピュータをブートできなくなった場合は、Award BIOSでCMOS設定をオーバライドしてシステムをデフォルトに戻すことができます。

システムに対しては、完全に理解している設定以外は変更しないのが最も安全です。したがって、チップセットのデフォルト設定は一切変更しないことを強くお勧めします。これらのデフォルトは、Awardとシステムメーカの両者がパフォーマンスと信頼性を最大限保証するために十分に考慮して選択した値です。チップセットの設定をわずかに変更しても、オーバライド機能を使用せざるを得ないような場合が生じる可能性があります。

♦A Final Note About Setup

本章の情報は予告なく変更することがあります。

メインメニュー

Award BIOS CMOS Setupユーティリティを開始すると、メインメニューが画面表示されます。メインメニューでは、複数のセットアップ機能からの選択、および2つの終了オプションを使用できます。項目を選択するには矢印キーを使用します。<Enter>を押すと、選択が確定されサブメニューが表示されます。

表示されている各項目に関する簡単な説明が画面下部に表示されます。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utitily

► Standard CMOS Features	► Frequency/Voltage Control			
► Advanced BIOS Features	Load Fail Safe Defualts			
Advanced Chipset Features	Load Optimized Defaults			
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password			
▶ Power Management Setup	Set Use Password			
► PnP/PCI Configurations	Save & Exit Setup			
▶ Health Status	Exit Without Saving			
Esc : Quit	↑↓→← :Select Item			
F10 : Save & Exit Setup				
F6 : SAVE CMOS TO BIOS	F7 : LOAD CMOS FROM BIOS			
Time, Date, Ha	ard Disk Type			

図5.1 Main Manu

◆設定項目

メインメニューには、以下のような設定カテゴリがあります。一部のシステムでは表示されない項目があります。

■ Standard CMOS Features

このメニューを用いて、システムの基本構成を設定します。

■ Advanced BIOS Features

このメニューを用いて、ご使用のシステムに設定可能な詳細機能を設定します。

■ Advanced Chipset Features

このメニューを用いて、チップセットレジスタの値を変更し、システム性能を最適化します。

■ Integrated Peripherals

このメニューを用いて、統合されている周辺機器の設定を指定します。

■ Power Management Setup

このメニューを用いて、電源管理に関する設定を指定します。

■ PnP / PCI Configuration

この項目は、ご使用のシステムでPnP/PCIがサポートされている場合に表示されます。

■ Load Fail-Safe Defaults

このメニューを用いて、システムを運用するための最小限の/安定した性能を実現するBIOSデフォルト値をロードします。

■ Load Optimized Defaults

このメニューを用いて、最適なシステム性能を実現するための工場設定であるBIOSデフォルト値をロードします。最適な性能に合わせたAwardによるカスタムBIOSの設計は、必要に応じて工場でデフォルト値が変更される場合があります。

■ Supervisor / User Password

このメニューを用いて、ユーザーおよび管理者パスワードを設定します。

■ Save & Exit Setup

CMOS値の変更をCMOSに保存し、セットアップを終了します。

■Exit Without Save

新たに設定したCMOS値をすべて破棄して、セットアップを終了します。

Standard CMOS Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Standard CMOS Features

	Date (mm:dd:yy) Time (hh:mm:ss)	Wed, Jul 18 2007 14:27:10	ltem Help
•	IDE Channel 0 Master IDE Channel 0 Slave	[None] [None]	Menu Level ▶ Change the day, month, year and century
	Video Halt On	[EGA/VGA] [All , But Keyboard]	
	Base Memory Extended Memory Total Memory	640K 514048K 515072K	

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.2 Standard CMOS Setup

Standard CMOS Featuresメニューでは、10個のカテゴリに項目が分類されています。各カテゴリで、ゼロ、1つまたは複数の項目を設定します。矢印キーで項目をハイライトし、<PgUp>または<PgDn>キーを用いて各項目の値を選択します。

メインメニューの選択肢

メインメニューで選択できる項目を下表に示します。

表5.2 メインメニューの選択肢

項目	オプション	説明
Date	Month DD YYYY	システムのカレンダを設定します。曜日は自動的 に 設定されます。
Time	HH: MM: SS	システムの時刻を設定します。
IDE Channel 0 Master	サブメニューに設定がありま す。	<enter>キー入力で詳細設定のサブメニューが表示されます。</enter>
IDE Channel 0 Slave	サブメニューに設定がありま す。	<enter>キー入力で詳細設定のサブメニューが表示されます。</enter>
Video	EGA/VGA CGA 40 CGA 80 MONO	標準のビデオデバイスを選択します。 通常EGA/VGAでご使用ください。
Halt On	All Errors No Errors All, but Keyboard	POSTプロセス時の停止項目を選択できます。
Base Memory	N/A	ブート時に認識したコンベンショナルメモリ容量 を 表示します。
Extended Memory	N/A	ブート時に認識した拡張メモリ容量を表示します。
Total Memory	N/A	すべてのメモリ容量を表示します。

◆IDEアダプタ

IDEアダプタは、CFカードを制御します。各CFカードの設定には、サブメニューを用います。

このメニューの操作や、メインメニューへの復帰には、キー入力を用います。 ハードディスクの設定項目は、下表に示します。

表5.3 IDE アダプタ

項目	オプション	説明		
IDE HDD Auto-detection	Press Enter	<enter>キー入力でCFカード自動認識を行います。 認識に成功するとメニュー内の項目が表示されます。</enter>		
IDE Channel 0/2 Master/Slave	None Auto Manual	'Manual'を選択した場合は、この画面の残りのフィール ドを設定できます。固定ディスクのタイプを選択しま す。"User Type"では、シリンダ数、ヘッド数などを選 択できます。注:PRECOMP=65535はNONEを意味し ます。		
Capacity	CFカードの容量が自動 的に表示されます。	ディスクドライブ容量(概算値)。このサイズは、通常、 ディスクチェックプログラムで与えられたフォーマット 済みディスクのサイズよりやや大きめの値となります。		
Access Mode	CHS LBA Large Auto	CFカードのアクセスモードを選択します。		
次のオプションは、"IDE Ch	annel 0/2 Master/Slave"項目	目が"Manual"に設定されている場合にのみ選択できます。		
Cylinder	Min = 0 Max = 65535	CFカードのシリンダ数をセットします。		
Head	Min = 0 Max = 255	CFカードのヘッド数をセットします。		
Precomp	Min = 0 Max = 65535	**** Warning: 65535を設定すると、CFカードがないことを意味しま す。		
Landing zone	Min = 0 Max = 65535	***		
Sector	Min = 0 Max = 255	トラックあたりのセクタ数を設定します。		

Advanced BIOS Features Setup

ここでは、システムの基本操作を設定できます。システムのデフォルト速度や、ブートアップ シーケンス、キーボード操作、シャドーイングおよびセキュリティに関する設定を行います。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Advanced BIOS Features

CPU Feature AHCI Configurations	[Press Enter] [Press Enter]	ltem Help
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	
Virus Warning	[Disabled]	
CPU L3 Cache	[Enabled]	
Hyper-Threading Technology	[Enabled]	Menu Level ▶
Quiet Post	[Disabled]	
Quick Power On Self Test	[Enabled]	
USB Device Wait	[Disabled]	
First Boot Device	[Removable]	
Second Boot Device	[CDROM]	
Third Boot Device	[Hard Disk]	
Boot Other Device	[Enabled]	
Boot Up NumLock Status	[0n]	
Gate A20 Option	[Fast]	
Typematic Rate Setting	[Disabled]	
x Typematic Rate (Chars/Sec)	6	
x Typematic Delay (Msec)	250	
Security Option	[Setup]	
APIC Mode	Enabled	
MPS Version Control For OS	[1.4]	
OS Select For DRAM > 64MB	[Non-0S2]	
WDT Protect	[Disabled]	
POST Code Show	[Disabled]	
CF Backup	[Press Enter]	

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defulats F7: Optimized Defaults

図5.3 Advanced BIOS Features Setup

CPU Feature

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
CPU Feature

Limit CPUID MaxVal C1E Function	[Disabled] [Auto]	ltem Help
C1E Function CPU C State Capability Execute Disable Bit	[Auto] [Disabled] [Enabled]	Menu Level ▶

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.4 CPU Feature

<Enter>を押し、CPU Feature関連の設定を行ってください。

表5.4 CPU Featuresセレクト

説明	選択肢
Limit CPUID MaxVal Windows98など、一部の古いOSにおいて、3より大きい値のCPUIDが読み取れません。それらのOSを使用する場合、Enabledを選択します。	Limit CPUID MaxVal Disabled [■] Enabled []
C1E Function CPU C1E機能を選択します。	C1E Function Auto [■] Disabled []

説明	選択肢
CPU C State Capability C1E Functionで使用する最低のC Stateを選択できます。 Disableのみが選択可能です。	CPU C State Capability Disable [■] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
Execute Disable Bit Disabledにした場合は、XD機能フラグを強制的に 0 とします。	Execute Disable Bit Enabled [

AHCI Configurations

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
AHCI Configurations

Item Help *** AHCI HBA Capabilities *** Stagger Spinup Support [Disabled] Mechanical Presence Switch [Disabled] Menu Level▶ * * * AHCI Port Capabilities * * * Use $<\uparrow>$ or \downarrow > to Hotplug capable port [Enabled] select a device, then Cold Presence Detection [Disabled] press < + > to move it up , or < -> to move it * * * AHCI Device Information * * * down the list. Press P0-Hitachi HEJ421080G9SA00 <ESC> to exit this menu.

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.5 AHCI Configurations

この項目は、「Integrated Peripherals」→「OnChip IDE Device」→「SATA Mode」でAHCIを選択した場合のみ、次起動時からSATA HDDを搭載している際に表示されます。

表5.5 AHCI Configurationsセレクト

説明	選択肢
Stagger Spinup Support 複数台のHDDを使用する場合、各HDD起動のタイミングを 制御し電源にかかる負荷を分散します。	Stagger Spinup Support Disabled [] Enabled []
Mechanical Presence Switch Enabledに設定した場合、電源投入時に接続されていたドライブの接続/取り外しの機械的な検出を有効にします。	Mechanical Presence Switch Disabled [▮] Enabled [] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
Hotplug capable port Enabledに設定した場合、SATAのホットプラグ機能を有効にします。	Hotplug capable port Disabled [] Enabled [▮] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
Cold Presence Detection Enabledに設定した場合、POST, Bootの間にドライブが全く 接続されなかったポートをアクティブな状態に保ち、Boot後 に接続されたドライブの検出を有効にします。	Cold Presence Detection Disabled [] Enabled []

Hard Disk Boot Priority

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Hard Disk Boot Priority

1. Bootable Add-in Cards	ltem Help
	Menu Level ► Use <↑ > or ↓ > to select a device, then press < + > to move it up, or < - > to move it down the list. Press <esc> to exit this menu.</esc>

↑↓→← :Move Enter:Selection F5: Previous Values

Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save is Values F6: Fail-Safe Defaults

ESC:Exit F1:General Help F7: Optimized Defaults

図5.6 Hard Disk Boot Priority

「Bootable add-in Cards」は、接続されたハードディスクとは別の外部デバイスを参照する選択肢です。

♦ Virus Warning

この機能を有効にしておくと、プログラム(特にウィルス)によってハードディスクドライブのブートセクタやパーティションテーブルへの書き込みが試行された場合に、警告メッセージが表示されます。メッセージが表示された場合は、アンチウィルスプログラムを実行する必要があります。本機能が保護するのはブートセクタのみです。ハードディスク全体は保護されないため、注意してください。

⚠ 注意

ブートセクタテーブルにアクセスする多くの診断プログラムによって、ウィルス警告メッセージがトリガされる場合があります。このようなプログラムを実行する場合は、その前にウィルス警告を無効にしてください。

Enabled	システムの起動時にアクティブ化され、ブートセクタまたはハードディスクのパーティションテーブルへの侵入が試行されると、警告メッセージを表示します。
Disabled	ブートセクタまたはハードディスクのパーティションテーブルへの侵入が試行されても、警告メッ
	セージは表示されません。

表5.6 Advance BIOS Feature セレクト

説明	選択肢
CPU L3 Cache キャッシュ機能を有効(メモリアクセスを高速化)または無効 にすることができます。	CPU L3 Cache Disabled[] Enabled[■]
Hyper-Threading Technology Hyper-Threading機能を有効または無効にすることができます。	Hyper-Threading Technology Disabled [] Enabled [■]

説明	選択肢
Quiet Post メモリやその他いくつかのデバイスに対する自己診断処理を 簡略化し、起動時間を短縮します。デフォルト(Disabled)では、自己診断処理を簡略化しません。	Quiet Post Disabled [■] Enabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Quick Power On Self Test Enabledを選択してPOST(電源投入時のセルフテスト)実行に必要な時間を短縮することができます。クイックPOSTではステップをいくつか飛ばして処理を行うので、通常は、この機能を無効にすることをお勧めします。作業中にデータを失うことがないよう、POST中のトラブルを特定するようにしてください。	Quick Power On Self Test Disabled [] Enabled [■]
USB Device Wait 起動に時間のかかるUSBデバイスを接続した場合に、ブートが正常に行えない場合が想定されます。そのような場合に、本設定にてBIOSの待機時間を指定し、USBデバイスへのアクセス開始を遅らせます。従って指定した待機時間分、起動が遅くなります。	USB Device Wait Disabled
First Boot Device BIOSは、この項目で選択した順序で、デバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	First Boot Device Removable ···· [■] Hard Disk ···· [] CDROM ···· [] LAN ···· [] Disabled ···· [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
Second Boot Device BIOSは、この項目で選択した順序で、デバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	Second Boot Device Removable ···· [] Hard Disk ··· [] CDROM ··· [] LAN ··· [] Disabled ··· [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Third Boot Device BIOSは、この項目で選択した順序で、デバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	Third Boot Device Removable · · · · [
Boot Other Device BIOSは、他のデバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	Boot Other Device Disabled [] Enabled [■]
Boot Up NumLock Status ONまたはOFFに設定し、システム起動時のNumLockキーの 状態を制御します。ONにすると、数字キーパッドを押した 場合に、カーソルが移動せず、数字が入力されます。	Boot Up NumLock Status Off [] On [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
Gate A20 option ゲートA20とは、1MBを超えるメモリ(拡張メモリ)のアドレス 指定の方法を指します。Fastに設定すると、システムチップセットによりゲートA20が制御されます。 Normalに設定すると、キーボードコントローラのピンによってゲートA20が制御されます。 OS/2およびWindowsの場合、ゲートA20をFastに設定することにより、システム速度が向上します。	Gate A20 Option Normal [] Fast [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Typematic Rate Setting Disabledにした場合は、以下の2項目(Typematic Rateおよび Typematic Delay)は無効です。キー入力の速度は、システム のキーボードコントローラによって決定されます。Enabled にすると、キー入力の速度設定と遅延設定を選択できます。	Typematic Rate Setting Disabled [■] Enabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Typematic Rate (Chars/Sec) キー入力の速度設定が有効になっている場合、キー入力速度 (キーを押し続けた場合に連続的に入力される文字の入力速 度)を設定できます。1秒あたりの文字数を6、8、10、12、 15、20、24または30の中から選択できます。	Typematic Rate (Chars/Sec) 6 [■] 8 [] 10 [] 12 [] 20 [] 24 [] 30 [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Typematic Delay (Maec) キー入力の速度設定が有効になっている場合、キー連続入力までの待ち時間間隔を設定できます。	Typematic Delay (Msec) 250 [■] 500 [] 750 [] 1000 []

説明	選択肢
Security Option	
システムを起動するたびにパスワードの入力を要求するか、セットアップの開始時にのみ要求するかを選択します。パスワードがある場合は、システムを起動するたびにパスワードを要求するかを選択します。 System: プロンプトに対して正しいパスワードを入力しない限り、システムは起動せず、セットアップへのアクセスも拒否されます。 Setup: システムは起動しますが、プロンプトに対して正しいパスワードを入力しない限り、セットアップへのアクセスが拒否されます。	Setup [1] System []
注: セキュリティ設定を無効にするには、メインメニューでPの入力を促すメッセージが表示されますが、何も入力せず、<ティを無効にすると、システムが起動し、セットアップへのフ	Enter>を押すと、セキュリティが無効になります。セキュリ
APIC Mode APIC L は、Advanced Programmable Interrupt Controller(高度プログラマブル割り込みコントローラ)を意味します。	APIC Mode Enabled[■]
注:このアイテムが、唯一示されます。	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
MPS Version Control For OS このオプションではOSにMPS(マルチプロセッサ仕様)を指定します。複数のPCIバス構成への対応や、将来の拡張性を向上させるため、MPSバージョン1.4 の場合、拡張型構成テーブルを追加します。	MPS Version Control For OS 1.1
OS Select For DRAM > 64M システム上で64MBを上回るRAMを用いてOS/2オペレーティングシステムを起動している場合にのみ、OS2を選択します。	OS Select For DRAM > 64M Non-OS2 []] OS2 [] 1 14:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
WDT Protect 接続されたデバイスの異常動作や、偶発的なノイズなどの予期せぬ理由で、BIOSの起動が停止する状況に備え、WDTによる監視を行えます。Enabledに設定すると、BIOS起動中に起動が停止したときに、リセットが実行され、再度の起動を試みる動作をします。	■DT Protect Enabled[] Disabled[■]
Post Code Show BIOS起動中に、画面右上にPost Codeを表示します。 ただし、Post Codeの表示は、グラフィックデバイスの初期 化が完了し、画面表示が可能となった後となります。	POST Code Show Enabled[] Disabled[■]
CF Backup 本設定を選択することで、CFのバックアップを作成、復元するツールを起動できます。お客様の環境をそのままバックアップする際にご利用頂けます。詳細は下記(*1)を参照願います。	

*1 CF Backup機能について

CF Backup機能をご利用の際は、お客様により別途バックアップ用のCFをご用意頂く必要があります。バックアップ用のCFは、バックアップ対象CFと同一型式のCFか、あるいはバックアップ対象CFより容量の大きいCFをご用意願います。弊社オプションCF以外のCFをご利用の場合は、相性に起因する問題が発生する場合がありますので、あらかじめお客様によります、動作確認を実施頂いた上で本機能をご利用願います。

また、バックアップの実施に際しましては、OSの使用許諾をよくお読み頂き、使用許諾の範囲内でのご利用をお願いいたします。

以下、CF Backup機能の利用手順です。

<CF Backup機能利用手順>

- (1) ボックスコンピュータにディスプレイ、キーボードを接続します。
- (2) バックアップ対象CFとバックアップ用CFをCFスロットへ挿入し、電源を投入します。
- (3) 起動時に"DEL"キーを押してBIOS設定画面を表示させ、メニューから"CF Backup"を選択します。
- (4) 以後は、表示される内容に従って、処理を続けます。Source Disk(バックアップ対象CF)とDestination Disk(バックアップ用CF)を指定することでコピー処理を行いますので、指定を誤った場合は、バックアップ対象CFの内容を消失する場合があります。表示される内容をよく確認頂き操作願います。
- (5) バックアップ処理が完了すると、"BACKUP finish, Press any key reboot."と表示されますので、A-Zのアルファベットのキーを入力してください。キー入力後、再起動します。
- (6) 以上でバックアップは完了です。



Advanced Chipset Features Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Advanced Chipset Features

X	DRAM Timing Selectable CAS Latency Time	By SPD Auto	ltem Help
X X	DRAM RAS# Precharge	Auto	Menu Level ▶
X	-,,		
•	System BIOS Cacheable Memory Hole At 15-16M PCI Express Root Port Func Disable MCHBAR MMIO		
	** VGA Setting ** On-Chip Frame Buffer Size DVMT Mode Total GFX Memory Boot Display	[8MB] [Enable] [128MB] [CRT]	
	** Watch Dog Timer Setting WDT Output to P02 WDT Power-on State WDT Time-up State	** [Disabled] [Off] [On]	

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.7 Advanced Chipset Features Setup

ここでは、チップセット固有の機能に基づき、システムを設定します。チップセットは、バス 速度を管理し、DRAMや外部キャッシュなどのシステムのメモリリソースへのアクセスを管理 します。これらの項目は絶対に変更しないでください。デフォルト設定は、システムの最適な 運用条件を提供するために決定されています。これらの項目は、システムの使用中にデータを 損失した場合でない限り、変更しないでください。

表5.7 Advance Chipset Featureセレクタ

表 5.7 Advance Chipset Feature セレクタ 説明	選択肢
DRAM Timing Selectable この項目は変更できません。デフォルト値(By SPD)のままご使用ください。メモリ周波数は800MHz固定で動作します。	DRAM Timing Selectable By SPD [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
System BIOS Cacheable Enabledを選択すると、システムBIOS ROMをF0000h - FFFFFFhでキャッシュできるようになり、システム性能が向上します。ただし、プログラムによってこのメモリ領域に書き込みが行われると、システムエラーが発生する場合があります。	System BIOS Cacheable Disabled[] Enabled[■]
Memory Hole At 15M-16M 性能を向上させるため、ISAカード用にメモリ空間が確保されています。このメモリは、16MB未満のメモリ空間にマッピングしなければなりません。	Memory Hole At 15M-16M Disabled [■] Enabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Disable MCHBAR MMIO MCHBARは、「Memory mapped range for IMC register」、MMIOは、「Memory Mapped IO」を意味します。デフォルト値(Enabled)のままでご使用ください。	Disable MCHBAR MMIO Enabled [▮] Disabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

PCI Express Root Port Function

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
PCI Express Root Port Func

PCI Express Port 1 PCI Express Port 2	[Auto] [Auto]	ltem Help
PCI Express Port 3 PCI Express Port 4 PCI Express Port 5 PCI Express Port 6 PCI-E Compliancy Mode	[Auto] [Auto] [Auto] [Auto] [V1.0a]	Menu Level ▶

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.8 PCI Express Root Port Function

表5.8 PCI Express Root Port Function Selections

説明	選択肢
PCI Express Port 1/2/3/4/5/6 この項目では、PCI Expressポート1/2/3/4/5/6の有効化、無効化、自動設定が可能です。	PCI Express Port 1 Auto [■] Enabled [] Disabled []
PCI-E Compliancy Mode この項目では、PCI Express準拠モードを設定できます。	PCI-E Compliancy Mode v1.0a [■] v1.0 [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

VGA設定

On-Chip VGA設定とデフォルト設定におけるフィールドです。

表5.9 VGA設定セレクト

説明	選択肢
On-Chip Frame Buffer Size Enabledにすると、A000hからBFFFhまでの固定VGAフレー ムバッファとCPU-PCI間書き込みパッファが実装されます。	On-Chip Frame Buffer Size 1MB [] 8MB [■]
DVMT Mode Dynamic Video Memory Technology (DVMT)モードの設定が可能です。	DVMT Mode Disable [] Enable [▮] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Total GFX Memory GFXメモリの容量を決定します。	Total GFX Memory 128MB [■] 256MB [] MAX [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Boot Display この項目では、ブート表示装置の選択が可能です。	Boot Display CRT [■] LFP [] CRT+LFP [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

Watch Dog Timer Setting

RASポート内のウォッチドッグタイマのPO2への出力設定です。

説明	選択肢	
WDT Output to PO2 ウォッチドッグタイマのPO2への出力を設定します。 「Enabled」の場合、ウォッチドッグタイマの出力がRASコネクタのPIO2ピンに出力されます。「WDT Power-on State」、「WDT Time-up State」を設定することで出力される値が変化します。	WDT Output to PO2 Disabled [■] Enabled []	
WDT Power on State 「WDT Output to PO2」の設定が「Enabled」の場合に、有効になります。パワーオン時のウォッチドッグタイマからの出力状態を設定します。	WDT Power-on State On [] Off [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort	
WDT Time-up State 「WDT Output to PO2」の設定が「Enabled」の場合に、有効になります。ウォッチドッグがタイムアップ時のウォッチドッグタイマからの出力状態を設定します。	WDT Time-up State On [■] Off [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort	

Integrated Peripherals

ここでは、お使いのハードディスクおよびその他の統合された周辺機器の構成を設定します。 最初の画面には、ユーザーが選択する3つのメイン項目が表示されます。いずれかの項目を選 択すると、サブメニューが表示されます。詳細は以下のとおりです。

> Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Integrated Peripherals

OnChip IDE DeviceOnboard Device	[Press Enter] [Press Enter] [Press Enter] [Press Enter]	1
SuperIO DeviceUSB Device Setting		

↑↓→← :Move Enter:Select F5: Previous Values

+/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F6: Fail-Safe Defaults F7: Optin

ESC:Exit F1:General Help F7: Optimized Defaults

図5.9 Integrated Peripherals

OnChip IDE Device

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
OnChip IDE Device

IDE HDD Block Mode IDE DMA transfer access	[Enabled] [Enabled]	ltem Help
*** On-Chip Serial ATA Setting* SATA Mode LEGACY Mode Support On-Chip Serial ATA	** [IDE] [Disabled] [Enhanced Mode]	Menu Level ▶
On-Chip PATA Setting On-Chip Primary PCI IDE IDE Primary Master PIO IDE Primary Slave PIO IDE Primary Master UDMA IDE Primary Slave UDMA On-Chip Secondary PCI IDE IDE Secondary Master PIO IDE Secondary Master UDMA IDE Secondary Master UDMA	[Enabled] [Auto] [Auto] [Auto] [Auto] [Enabled] [Auto] [Auto] [Auto]	

 $\uparrow \downarrow \rightarrow \leftarrow : Move \quad Enter: Select \quad +/-/PU/PD: Value \quad F10: Save \quad ESC: Exit \quad F1: General \ Help \\ F5: \quad Previous \ Values \qquad \quad F6: Fail-Safe \ Defaults \qquad \qquad F7: \ Optimized \ Defaults$

図5.10 On Chip IDE Device 表5.10 On Chip IDE Deviceセレクト

説明	選択肢
IDE HDD Block Mode ブロックモードは、ブロック転送、マルチコマンド、または マルチセクタ読み出し/書き込みとも呼ばれます。CFカード がブロックモードをサポートしている場合は、Enabledを選 択すると、ドライブでサポート可能なセクタ別の最大ブロック読み出し/書き込み回数が自動検出されます。	IDE HDD Block Mode Disabled[] Enabled[■]
	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
IDE DMA transfer access IDE DMA transfer accessを有効/無効にします。	IDE DMA transfer access Disabled[] Enabled[■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
SATA Mode SATAハードディスクモードをIDEまたはAHCIモードに設定できます。	SATA Mode IDE[■] AHCI[] ↑ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
LEGACY Mode Support SATAをLEGACYモードで動作させることができます。	LEGACY Mode Support Disabled [▮] Enabled [] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
On-Chip Serial ATA Disabled: SATAコントローラを無効にします。 Combined Mode: PATAとSATAの組み合わせが可能です。 最大3個のIDEデバイスをSATA用に1、PATA用に2使用できます。 Enhanced Mode: SATAとPATAの両方が有効です。最大3個のIDEドライブに対応します。 SATA Only: SATAがレガシー・モードで動作します。	On-Chip Serial ATA Disabled[] Combined Mode[] Enhanced Mode[I] SATA Only[] **Move ENTER:Accept ESC:Abort
On-Chip Primary PCI IDE 内蔵ペリフェラルコントローラには、2つのIDEチャネルをサポートするIDEインターフェイスが含まれます。各チャネルを隔てて起動させるには、有効を選んでください。	On-Chip Primary PCI IDE Disabled [] Enabled [■]

説明	選択肢
IDE Primary Master / Slave PIO 2つのIDE PIO (Programmed Input/Output)項目で、オンボードIDEインターフェイスがサポートする1つのIDEデバイスにおけるそれぞれのPIOモード(0·4)を設定します。Autoモードは、システムが最適モードを自動的に決定します。	IDE Primary Master PIO
IDE Primary Master/Slave UDMA UDMA (Ultra DMA)とは、ATAコマンドとATAバスを用いて、DMAコマンドによる33 MB/秒の最大パースト速度でのデータ転送を可能にするDMAデータ転送プロトコルのことです。2つのIDE UDMAフィールドでAutoを選択した場合、各IDEデバイスの最大データ転送速度はシステムによって自動的に決定されます。	IDE Primary Master UDMA Disabled [] Auto [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort IDE Primary Slave UDMA Disabled [] Auto [■]

Onboard Device

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Onboard Device

Onboard LAN A Onboard LAN B	[Enabled] [Enabled]	ltem Help
Onboard Lan A Boot ROM Onboard Lan B Boot ROM	[Enabled] [Disabled] [Disabled]	Menu Level ▶

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults

F7: Optimized Defaults

図5.11 Onboard Device

表5.11 On board device Selections

説明	選択肢
Onboard LAN A オンボードLAN·Aコントローラを使用しない場合、Disabled を選択して下さい。	Onboard LAN A Enabled [■] Disabled []
Onboard LAN B オンボードLAN·Bコントローラを使用しない場合、Disabled を選択して下さい。	Onboard LAN B Enabled [■] Disabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Onboard Lan A Boot ROM オンポードLAN·Aコントローラにより、PXEネットワークブートを行う場合Enabledにします。	Onboard Lan A Boot ROM Enabled [] Disabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
Onboard Lan B Boot ROM オンボードLAN-Bコントローラにより、PXEネットワークブ ートを行う場合Enabledにします。	Onboard Lan B Boot ROM Enabled [] Disabled [■]

Super IO Device

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility SuperIO Device

T.P. Serial Port Onboard Serial Port A	[Disabled] [3F8/IRQ4]	ltem Help
Onboard Serial Port B	[2F8/IRQ3]	
Onboard Seriai Port C	[2A8/IRQ6]	Menu Level ▶
Onboard Seriai Port D	[2B0/IRQ7]	
Onboard Seriai Port E	[2C0/IRQ10]	
RS-422/485 Port	[2C8/IRQ11]	

↑↓→← :Move Enter:Select F5: Previous Values

+/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F6: Fail-Safe Defaults F7: Optio

ESC:Exit F1:General Help F7: Optimized Defaults

図5.12 SuperIO Device

表5.12 Super I/O deviceセレクト

説明	選択肢	
T.P. Serial Port タッチパネル用シリアルポートの有効/無効を設定します。 通常はDisableでご利用ください。	T.P. Serial Port LFP [] OPTION [] Disabled [■]	

説明	選択肢
Onboard Serial Port A シリアルポートAのアドレスおよび利用する割り込みを選択 します。	Onboard Serial Port A Disabled [] 3F8/IRQ4 [■] 2F8/IRQ3 [] 3E8/IRQ4 [] 2E8/IRQ3 []
Onboard Serial Port B シリアルポートBのアドレスおよび利用する割り込みを選択 します。	Onboard Serial Port B Disabled [] 3F8/IRQ4 [] 2F8/IRQ3 [■] 3E8/IRQ4 [] 2E8/IRQ3 []
Onboard Serial Port C シリアルポートCのアドレスおよび利用する割り込みを選択 します。	Onboard Serial Port C Disabled [] 2A8/IRQ6 [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Onboard Serial Port D シリアルポートDのアドレスおよび利用する割り込みを選択 します。	Onboard Serial Port D Disabled [] 2B0/IRQ7 []]
Onboard Serial Port E シリアルポートEのアドレスおよび利用する割り込みを選択 します。	Onboard Serial Port E Disabled [] 2C0/IRQ10 [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
RS-422/485 Port 本シリアルポートはRASコネクタ内のRS422/485を使用する 場合に利用します。	RS-422/485 Port Disabled [] 2C8/IRQ11 [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

USB Device Setting

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
USB Device Setting

USB 2.0 Controller USB Operation Mode	[Enabled] [High Speed]	ltem Help
USB Keyboard Function USB Storage Function USB Over Current	[Enabled] [Enabled] [Enabled]	Menu Level ▶
*** USB Mass Storage Devic	e Boot Setting ***	

 $\uparrow \downarrow \rightarrow \leftarrow : Move \quad Enter: Select \quad +/-/PU/PD: \forall value \quad F10: Save \quad ESC: Exit \quad F1: General \ Help$

F6: Fail-Safe Defaults

☑5.13 USB Device Setting

F5: Previous Values

表5.13 USB Device Settingセレクト

説明	選択肢
USB 2.0 Controller Onboard USB 2.0機能の有効/無効を選択できます。通常は Enableでご利用ください。	USB 2.0 Controller Enabled[] Disabled[]
USB Operation Mode USBの動作モードを選択できます。	USB Operation Mode High Speed [■] Full/Low Speed [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

F7: Optimized Defaults

説明	選択肢
USB Keyboard Function USBをSupportしないOSで、USBキーボードを使用する場合は、Enabledを選択します。	USB Keyboard Function Disabled [] Enabled [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
USB Storage Function USBストレージを使用する場合は、Enabledを選択します。 Windows XPなどUSBをSupportしているOSでは、Disabledでもストレージを使用できます。	USB Storage Function Disabled [] Enabled [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
USB Over Current Support USB Over Currentの有効/無効を選択します。通常は Enableでご利用ください。	USB Over Current Support Enabled [■] Disabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

Power Management Setup

電源管理セットアップでは、システム用途に合わせて最も効率的な省電を設定できます。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Power Management Setup

	ACPI Function ACPI Suspend Type	[Enabled] S1(POS)	ltem Help
х	Run VGA BIOS if S3 Resume	[Auto]	
	Power Management	[User Define]	
	Video Off Method	[DPMS]	Menu Level ▶
	Video Off In Suspend	[Yes]	
	Suspend Type	[Stop Grant]	
	MODEM Use IRQ	[3]	
	Suspend Mode	[Disabled]	
	HDD Power Down	[Disabled]	
	Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-Off]	
	PWRON After PWR-Fail	On	
	PCI Express WAKE	[Disabled]	
	PCI Express PME	[Disabled]	
	Wake-Up by PCI card	[Disabled]	
	Power On by Ring	[Disabled]	
	Resume by Alarm	[Disabled]	
х	Date (of Month) Alarm	0	
х	Time (hh : mm : ss) Alarm	0:0:0	
	** Reload Global Timer Events **		
	Primary IDE 0	[Disabled]	
	Primary IDE 1	[Disabled]	
	Secondary IDE 0	[Disabled]	
	Secondary IDE 1	[Disabled]	
	FDD, COM Port	[Disabled]	
	PCI PIRQ [A-D] #	[Disabled]	

図5.14 Power Management Setup

表5.14 Power Management Setup Selections

説明	選択肢
ACPI Function ACPI機能を有効にするにはEnabledを選択します。デフォルト設定は、"Enabled"です。Windowsインストール後に設定を変更すると、OSの再インストールが必要になります。	ACPI Function Enabled [■] Disabled []

注:ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)とは、電力管理に関する規格で、オペレーティングシステムが ハードウェアの状態に関する情報を利用できるようにします。この規格を利用することにより、コンピュータは周辺機器の 電源の入切を行い電力管理を向上させることができます。また、マウスまたはキーボード操作でコンピュータをウェイクア ップさせることができるように、この規格により外部デバイスからコンピュータの電源の入切を行うことも可能です。

説明	選択肢
	ACPI Suspend Type
ACPI Suspend Type ACPIのサスペンドモードは「S1(POS)」のみのサポートとなります。	S1(POS) []
Power management	
この設定では、システムのドーズモード、スタンパイモード、サスペンドモードの各タイマ機能を制御します。このカテゴリを使用して、省電力機能のタイプ(度合い)を選択します。 User Define:各モードを個別に設定できます。有効にした場合の設定範囲は1分・1時間です(例外: HDDパワーダウンの	Power Management User Define[] Min Saving [] Max Saving []
設定範囲は1分・15分)。 Min Saving:最小限の電力管理を行います(スタンパイモード = 1時間、HDDパワーダウン= 15分)。 Max Saving:最大限の電力管理を行います(スタンパイモード = 1分、サスペンドモード= 1分、HDDパワーダウン= 1分)。	↑4:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Video Off Method この項目は、モニタを空白にする方式を決定することができます。	Video Off Method Blank Screen [] V/H SYNC+Blank [] DPMS •
Blank Screen:このオブションは、ビデオバッファに空白を書き込みます。 V/H SYNC+Blank:このオブションは、システムは垂直・水平同期ポートの電源が切断され、ビデオバッファに空白を書き込みます。 DPMS:ディスプレイの初期電力管理信号	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Video Off In Suspend ここでは、モニタ画面を消す方法が設定されます。	Video Off In Suspend No[] Yes[■]

説明	選択肢
Suspend Type Suspend typeの選択を有効にします。オプションは、"Stop Grant"と"PwrOn Suspend"です。	Suspend Type Stop Grant [] PwrOn Suspend []
MODEM Use IRQ モデムへの入電によって、システムを省電カモードから自動 的にレジュームさせたい場合は、ここでモデムが使用する割 り込み要求ライン(IRQ)を指定します。 この機能を使用するために、Fax/モデムをキーボードコンピ ュータのWake On Modemコネクタに接続する必要がある場 合があります。	MODEM Use IRQ
Suspend Mode 指定した時間内に電力管理イベントがなにも起こらなかった 場合、CPUクロックが停止しビデオシグナルがサスペンド状態になります。 電力管理イベントが検出されると、フルパワー機能が復帰します。 ※USB Keyboard Support の項目が [Enabled]に設定されている場合、この機能は使用できません。	Suspend Mode Disabled [■] 1 Min [] 2 Min [] 4 Min [] 8 Min [] 12 Min [] 20 Min [] 30 Min [] 40 Min [] 1 Hour []

説明	選択肢
HDD Power Down Enabledに設定すると、指定の時間を過ぎてもシステム操作が行われない場合に、ハードディスクドライブが省電力モードに移行します。他のデバイスは、そのままアクティブです。	HDD Power Down
Soft-Off by PWR-BTTN パワーボタンにより、Soft-Off(S5)する場合、パワーボタンが機能するまでの時間を指定します。「Instant-Off」はパワーボタン押下後すぐに機能します。「Delay 4 sec」の場合は、パワーボタンを4秒間押し続けると機能します。ただし、Windowsではパワーボタンの制御がOS側で行われます。	Soft-Off by PWR-BTTN Instant-Off [■] Delay 4 Sec [] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
ACPI SHUTDOWN デフォルトはEnableです。 PCのシャットダウン時に、「電源を切る準備ができました」と表示します。(BX-110n-DC6124-C01のみ対応)	ACPI SHUTDOWN Enabled [■] Disabled [] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
PWRON After PWR-Fail PWRON After PWR-Failは「On」のみのサポートとなります。 停電など電源異常発生後に電源が回復した時に常に起動します。	PWRON After PWR-Fail On [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
PCI Express PME デフォルトはDisabledです。 Add on PCI-E Card PME用の項目です。 通常、Disabledでご使用ください。	PCI Express PME Enabled[] Disabled[■]
PCI Express WAKE デフォルトはDisabledです。 Enabledに設定すると、On Board LANのWOL機能が有効に なります。ただし下記「Wake-Up by PCI Card」設定も同時 にEnableとする必要があります。	PCI Express WAKE Enabled[] Disabled[■]
Wake-Up by PCI card 「Enabled」に設定すると、On Board LANのWOL機能が有 効になります。ただし上記「PCI Express Wake」設定も同 時にEnableとする必要があります。	Wake-Up by PCI card Disabled [■] Enabled []
Power On by Ring "Enabled"に設定すると、SERIAL A, B, C, D, E に接続されたモデムへの着信(Ring信号)によるシステムの起動が行えます。	Power On by Ring Disabled[■] Enabled[] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Resume by Alarm Enabledにすると、RTC (リアルタイムクロック)アラームに よってシステムを起動する日時を設定できます。	Resume by Alarm Disabled[] Enabled[]

	説明		選択肢	
	Date(of Month) Alarm		Time(hh:mm:ss) Alarm	
	Min= 0 Max= 31		Min= 0 Max= 23	
	Key in a DEC number :		Key in a DEC number :	
	1:Move ENTER:Accept ESC:Abort			
	ーバルタイマイベントの再ロード : Enabledにする パイモードのグローバルタイマが再始動します。	5と、登録:	されているデバイスごとに発生するイベントにより	、ス
	Primary IDE 0		Primary IDE 1	
	Disabled[▮] Enabled[]		Disabled [■] Enabled []	
	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort		↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort	
	FDD, COM Port		PCI PIRQ[A-D]#	
	Disabled[▮] Enabled[]		Disabled[▮] Enabled[]	
	↑J:Move ENTER:Accept ESC:Abort		↑4:Move ENTER:Accept ESC:Abort	
Į	TWING TO ENTERCAGOODE ESCADORE		TAINIONE CIVILITY ACCENT ESCHADOR	

PnP/PCI Configuration Setup

ここでは、PCIバスシステムの構成について説明します。PCI (Personal Computer Interconnect) は、I/Oデバイスが独自の特殊コンポーネントを使用して通信する際に、CPU自身が使用している速度に近い速度で動作できるようにするシステムです。技術的に経験豊富なユーザーでない限り、デフォルト設定には変更を加えないでください。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility PnP/PCI Configurations

Init Display First Reset Configuration Data	[PCI Slot] [Disabled]	ltem Help
Resources Controlled By x IRQ Resources INT Pin 1 Assignment INT Pin 2 Assignment INT Pin 3 Assignment INT Pin 4 Assignment INT Pin 5 Assignment INT Pin 6 Assignment INT Pin 7 Assignment INT Pin 8 Assignment INT Pin 8 Assignment ** PCI Express relative it Maximum Payload Size	[Auto(ESCD)] Press Enter [Auto]	Menu Level ▶

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.15 PnP/PCI Configuration Setup

表5.15 PCI PnP/PCI Configuration Setupセレクト

説明	選択肢
Init Display First システム上の他のディスプレイ装置を初期化する前にオンボードビデオディスプレイを初期化します。これにより、オンボードディスプレイが1次ディスプレイになります。	Init Display First PCI Slot []] Onboard []

説明	選択肢
Reset Configuration Data 通常、このフィールドはDisabledのままにしておきます。 COMのEnable / Disableの変更など、リソース割り当てのリセットが必要になった際に、このフィールドをEnabledに設定してください。セットアップの終了時、ESCD(Extended System Configuration Data)がリセットされます。	Reset Configuration Data Disabled[
Resource Controlled By Award Plug and Play BIOSには、すべてのブートおよびプラグアンドプレイ互換デバイスを自動設定する機能があります。Autoを選択した場合は、BIOSによって自動的に割り当てられるため、すべての割り込み要求(IRQ)フィールドとDMA割り当てフィールドが非素示になります。	↑4:Move ENTER:Accept ESC:Abort Resources Controlled By Auto(ESCD) [■] Manual []
司ソコ Cノ1 /レ l'ル'か水小になりまり。	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

IRQ n Resources

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility IRQ Resources

IRQ-3 assigned to IRQ-4 assigned to	[PCI Device] [PCI Device]	ltem Help
IRQ-5 assigned to IRQ-5 assigned to IRQ-7 assigned to IRQ-9 assigned to IRQ-10 assigned to IRQ-11 assigned to IRQ-12 assigned to IRQ-14 assigned to IRQ-15 assigned to	[PCI Device] [PCI Device] [PCI Device] [PCI Device] [PCI Device]	Menu Level Legacy ISA for devices compliant with the original PC AT bus specifications, PCI/ISA Pnp for devices compliant with the Plug and Play standard whether designed for PCI or ISA bus architecture

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.14 IRQ n Resources

リソースを手動で制御する場合は、各システム割り込みを以下に示すデバイスタイプのどれか に割り当ててください。

Legacy ISAデバイス: 最初のPC ATバス仕様に準拠しており、特定の割り込み(シリアルポー

ト1に対するIRQ4など)を必要とするデバイス

PCI/ISA PnPデバイス: プラグアンドプレイ標準規格に準拠しており、PCIまたはISAバスアー

キテクチャ対応の設計が行われているデバイス

選択肢: Legacy ISA and PCI/ISA PnP

説明	選択肢
	INT Pin 1 Assignment
INT Pin 1 Assignment 通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス: ディスプレイコントローラ - Bus 0 Dev 2 Func 0 USB 1.0/1.1 UHCIコントローラ - Bus 0 Dev 29 Func 3	Auto[] 3[] 4[] 5[] 7[] 9[] 10[] 11[] 12[] 14[] 15[]
	INT Pin 2 Assignment
INT Pin 2 Assignment 通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス: マルチメディアデバイス - Bus 0 Dev 30 Func 2	Auto
INT Pin 3 Assignment 通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス: USB 1.0/1.1 UHCIコントローラ - Bus 0 Dev 29 Func 2	Auto [

説明	選択肢
	INT Pin 4 Assignment
INT Pin 4 Assignment	Auto [▮] 3 []
通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス :	4[] 5[]
IDEコントローラ ・ Bus 0 Dev 31 Func 2	9[]
USB 1.0/1.1 UHCIコントローラ - Bus 0 Dev 29 Func 1	10[] 11[]
SMBusコントローラ ・ Bus 0 Dev 31 Func 3	12[] 14[]
	15[] ↑;Move ENTER:Accept ESC:Abort
	INT Pin 5 Assignment
INT Pin 5 Assignment	Auto[■] 3[] 4[]
通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス:	5[] 7[]
ネットワークコントローラ - Bus 1 Dev 8 Func 0 Simple Communicationコントローラ - Bus 0 Dev 30 Func 3	9[]
	11[] 12[]
	14[] 15[]
	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
	INT Pin 6 Assignment
	Auto[
INT Pin 6 Assignment	5[] 7[]
通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス: - 予約	9[]
	11[] 12[]
	14[] 15[]
	↑⊯Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
	INT Pin 7 Assignment
	Auto[
INT Pin 7 Assignment	5[] 7[]
通常はAutoでご使用ください。 INT使用デバイス: - 予約	9[]
7.43	11[] 12[] 14[]
	14[] 15[] ↑\:Move ENTER:Accept ESC:Abort
	INT Pin 8 Assignment
	Auto [▮] 3 []
INT Pin 8 Assignment 通常はAutoでご使用ください。	4[] 5[]
一面帯はAutoでこ使用へたさい。 INT使用デバイス:	5[] 7[]
USB 1.0/1.1 UHCIコントローラ	9[]
- Bus 0 Dev 29 Func 0	10[]
USB 2.0 EHCIコントローラ	11[]
- Bus 0 Dev 29 Func 7	12[]
	14[]
	15[]
	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

PCI Express関連アイテム

表5.16 PCI Express 関連アイテムセレクト

説明	選択肢
	Maximum Payload Size
Maximum Payload Size PCI Expressデバイスの最大TLPペイロードサイズを設定し ます(バイト単位)。128のみが表示されます。	128[1]
	↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

PC Health Status

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility PC Health Status

Warning Beep CPU THRM-Throttling	[Disabled] [Disabled]	ltem Help
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
Current System Temp	42°C / 107° F	Menu Level ▶
Current CPU1 Temperature	41°C / 105°F	
Current CPU2 Temperature	42°C / 107°F	
Vcore	1.18V	
12 V	12.03V	
5 V	5.86V	
3.3 V	3.31V	
1.05V	1.05V	
VBAT(V)	3.07V	
		<u> </u>

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults

F7: Optimized Defaults

図5.17 PC Health Status

BIOSは、このウィンドウにパソコンの環境状態を表示します。

表5.17 PC Health Statusセレクト

説明	選択肢	
Warning Beep Disabled: この機能を無効にします。 Enabled: 下記「CPU Warning Temperature」にて設定した温度を超えると警告音としてBeepが鳴動します。	Warning Beep Disabled [■] Enabled [] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort	
CPU THRM-Throttling 下記「CPU Warning Temperature」にて設定した温度を超えると、選択したパーセンテージでスロットリングが動作し CPUの発熱を抑えます。ただし、Windowsでの動作はサポートしていません。	CPU THRM-Throttling	
CPU Warning Temperature 上記「Warning Beep」及び「CPU THRM Throttling」を利 用する際に、CPU温度に対する閾値温度を指定します。	CPU Warning Temperature Disabled [■] 75°C/167°F [] 80°C/176°F [] 85°C/185°F [] 90°C/194°F [] 95°C/205°F []	
Current System Temp.	現在のシステム温度が表示されます。	
Current CPU1/CPU2 Temp.	現在のCPU温度が表示されます。	
Vcore / +12V / +5V / +3.3V / +1.05V / VBAT	現在の電圧が表示されます。	

Frequency/Voltage Control

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Frequency/Voltage Control

Spread Spectrum	[Enabled]	ltem Help
		Menu Level ▶

↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図5.18 Frequency/Voltage Control

表5.18 Frequency/Voltage Control Selections

説明	選択肢
Spread Spectrum システムクロックジェネレータがパルスを生成すると、パルスによって生成される極限値がEMIを超過します。パルスのスペクトラム拡散変調を有効にすると、突出した極限値が緩やかなカーブに変わるため、EMIを軽減できます。この方法で、タイミングが重要なデバイスの問題を軽減できる場合があります。	Spread Spectrum Disabled[] Enabled[I] **Inabled[I] **Inabled[I]

Defaults Menu

メインメニューからDefaultsを選択すると、次に説明する2つのオプションが表示されます。

■ Load Fail-Safe Defaults

"Load Fail-Safe Defaults"の項目に対して<Enter>キーを押すと、確認ダイアログボックスが表示され、次のようなメッセージが表示されます。

Load BIOS Defaults (Y/N) ? N

<Y>キーを押すと、最も安定した最小限の性能システム動作のためのBIOSデフォルト値がロードされます。

■ Load Optimized Defaults

"Load Optimized Defaults"の項目に対して<Enter>キーを押すと、確認ダイアログボックスが表示され、次のようなメッセージが表示されます。

Load setup Defaults (Y/N) ? N

< Y>キーを押すと、最適性能なシステム動作のための工場設定であるデフォルト値がロードされます。

Supervisor/User Password Setting

スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードまたはその両方を設定することができます。この2つの違いは次のとおりです。

スーパーバイザーパスワードは、セットアップメニューのオプションを入力および変更することができます。

ユーザーパスワードは、セットアップメニューのオプションを入力することはできますが、変更する権利は持っていません。この機能を選択すると、画面の中央に次のようなメッセージが表示され、パスワードの作成を支援します。

■ENTER PASSWORD:

8文字以下のパスワードを入力し、<Enter>キーを押します。ここで入力したパスワードで、以前に入力したパスワードがCMOSメモリから消えることはありません。パスワードを確認するように要求されます。再びパスワードを入力して<Enter>キーを押します。または、<Esc>キーを押して選択を中断し、パスワードを入力しないこともできます。

パスワードを無効にするには、パスワードを入力するようにプロンプト表示されたときに <Enter>キーを押すだけです。パスワードが無効になることを確認するメッセージが表示されます。パスワードを無効にすると、システムはブートし、自由にSetupに入ることができます。

■PASSWORD DISABLED.

パスワードを有効にしておくと、Setupに入ろうとするたびに、パスワードを入力するように要求されます。これによって権限を持たない人物がシステム構成を変更することが防止されます。

さらに、パスワードが有効になっていると、システムをリブートするたびに、BIOSはパスワードを要求します。これによって権限を持たない人物がコンピュータを使用することが防止されます。

Advanced BIOS FeaturesメニューのSecurityオプション(BIOS Features Setupを参照)で、パスワードをいつ要求するかを決めることができます。SecurityオプションをSystemに設定すると、ブート時とSetupに入るときの両方でパスワードが要求されます。Setupに設定すると、Setupに入ろうとしたときにのみパスワードが要求されます。

Exit Selecting

■ Save & Exit Setup

この項目に対して<Enter>キーを押すと、次のような確認を求めるメッセージが表示されます。

Save to CMOS and EXIT (Y/N)? Y

<Y>キーを押すと、メニューで行った選択内容がCMOSに格納されます。CMOSは、システムの電源をオフにしても保持されるメモリの特別な領域です。次回にコンピュータをブートすると、BIOSは、CMOSに格納されたSetup選択内容に基づいてシステムを構成します。値を保存した後、システムは再起動します。

■Exit Without Saving

この項目に対して<Enter>キーを押すと、次のような確認を求めるメッセージが表示されます。

Quit without saving (Y/N)? Y

これによって、変更内容をCMOSに格納せずにSetupを終了することができます。この場合、 以前の選択内容が依然として有効です。Setupユーティリティが終了し、コンピュータが再起 動します。

POST時のメッセージ

電源投入時自己診断(POST)時にBIOSが、修正するための処置を行わなければならないエラーを検出した場合は、BIOSは電子音コードを鳴らすか、またはメッセージを表示します。

メッセージが表示される場合は、以下の文句も付属的に表示されます。

処理を継続する場合はF1キーを押し、セットアップを入力する場合はCTRL-ALT-ESCキーまたはCTRL-ALT-DELキーを押してください。

POST時の電子音

電子音コードは、ビデオエラーが発生した場合に鳴動します。追加情報を表示させるようにBIOSがビデオ画面を初期化することができないことを示します。この電子音コードは、1つの長い電子音と、その後に続く2つの短い電子音から構成されています。

エラーメッセージ

POST時にBIOSがエラーを検出すると、1つまたは複数のメッセージが表示される場合があります。以下にメッセージを示します。

CMOS battery has failed

CMOSバッテリが機能しなくなりましたので交換してください。

Disk boot failed

[INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER]

ブートデバイスが見つかりません。これは、ブートドライブが検出されなかったか、またはブートドライブが正しいシステムブートファイルを含んでいないかのどちらかの可能性があることを意味します。起動ドライブの接続と内容を確認してください。

Error encountered initializing hard drive

ディスクドライブを初期化することができません。HDD/SSD/CF等ストレージの接続に問題が無いか、また間違った設定を行っていないかを確認してください。

Error initializing hard disk controller

ディスクドライブコントローラを初期化することができません。HDD/SSD/CF等ストレージの接続に問題が無いか、また間違った設定を行っていないかを確認してください。

Keyboard error or no keyboard present

キーボードを初期化することができません。キーボードが正しく接続されており、起動時にキーを押していないことを確認してください。

意図的にキーボードなしでシステムを構成する場合は、セットアップのエラー停止状態を HALT ON ALL, BUT KEYBOARD(キーボードを除くすべての装置を停止)に設定してくださ い。この場合、BIOSは見つからないキーボードを無視して起動を継続します。

Memory address error at...

これは、特定位置でメモリアドレスエラーが発生したことを示しています。

Press a key to REBOOT

このメッセージは、再起動を必要とするエラーが発生した場合に画面最下部に表示されます。

Press F1 to disable NMI, F2 to REBOOT

起動時にBIOSがマスク不可能割り込み(NMI)状態を検出すると、ユーザーはNMIを無効にし起動を継続するか、またはNMIを有効にした状態でシステムを再起動することができます。

System halted, (CTRL-ALT-DEL) to REBOOT...

このメッセージは、現在行った起動が中止されたのでシステムを再起動しなければならないことを示しています。CTRLキーとALTキーを押し下げた状態でDELキーを押してください。

Hard disk(s) fail (80)

ディスクドライブのリセットができません。

Hard disk(s) fail (40)

ディスクドライブコントローラの診断が行えません。

Hard disk(s) fail (20)

ディスクドライブの初期化エラーです。

Hard disk(s) fail (10)

ディスクドライブの再設定ができません。

Hard disk(s) fail (08)

セクタベリファイができません。

Keyboard is locked out - Unlock the key

本製品には、Keyboard Lockがありません。このメッセージが表示される場合、キーボードコントローラの故障の可能性があります。

Keyboard error or no keyboard present

キーボードの初期化ができません。キーボードが正しく接続されており、起動時にキーを押していないことを確認してください。

BIOS ROM checksum error - System halted

ROMアドレスF0000H-FFFFFHのチェックサムが間違っています。

故障若しくは、ROM内容が改竄された可能性があります。

Memory test fail

BIOSは、オンボードメモリ試験でエラーが発生したためメモリ試験が失敗したことを通知します。

Error loading operating system

Invalid System disk

これらの表示は、BIOSでは無くDisk内のBoot RecordのProgramが、OSのLoadに失敗した、エラーとして表示します。 Diskの内容を確認してください。

CMOS、ROMクリアスイッチの位置と設定

BIOS設定により予期しない起動不良が発生した場合、CMOS、ROMクリアのスイッチを設定してシステムを起動することでBIOS設定を無効にして起動することができます。 通常運転状態では、CMOS、ROMクリアスイッチを出荷時設定(1-4、2-3をOFF)にしてください。

⚠ 注意

電源OFF後、すぐに本製品に触れると火傷の恐れがあります。 スイッチ設定を行う場合は、十分冷却し設定を行ってください。

(1) 製品から裏面のカバーを取り外します。 (ネジの本数 カバー:3本)

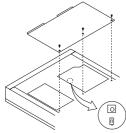


図5.19 カバー、ヒートシンクの取り外しとCMOS、ROMクリアスイッチ位置

裏面のカバーを取り外すと、上図のようにCMOSクリアプッシュボタン(S2)とROMクリアディップスイッチ(S1)があります。

- (2) CMOSクリアプッシュボタン(S2)を押し10秒程度経過後、プッシュボタンから手を離します。
- (3) 次にROMクリアディップスイッチ(S1)の1-4をONにします。
- (4) カバーを元の場所に取り付けます。ネジの取り付け時は、無理な力を加えずに締めてください
- (5) BIOSセットアップ画面を起動して再設定を行い、電源を切ります。
- (6) カバーを取り外し、ROMクリアディップスイッチ(S1)をOFFに戻します。
- (7) 取り外したときの逆の手順でカバーを取り付けます。

⚠ 注意-

- ・ 指定以上の締め付けトルクでネジ止めすると、ネジ穴が壊れる場合があります。適正なネジの締め付けトルクは1-1.5 kgf·cmです。
- 裏面のカバーを固定しているネジを外すときは以下の点に注意願います。誤った取り扱いを行うと場合によってはネジ穴を潰す可能性があります。
- カバーを取り外すときのドライバの先端は以下のものを使用してください。カバー: (+)No.0
- カバーのネジを外すときには電動ドライバは使用しないでください。

第6章 付録

メモリマップ

メモリセグメント	コメント
00000h - 9FFFh	0 - 640K DOS領域
A0000h - BFFFFh	ビデオバッファ
B0000h - B7FFFh	モノクロアダプタの範囲
C0000h - CFFFFh	ビデオBIOS
D0000h - DFFFFh	拡張領域
E0000h - EFFFFh	拡張システムBIOS領域
F0000h - FFFFFh	システムBIOS領域
100000h - FFFFFFFFh	拡張メモリ領域
00100000 - Top of Main Memory	メインDRAMアドレス範囲
Top of Main Memory	拡張SMRAMアドレス範囲
Top of Main Memory To 4GB	PCIメモリアドレス範囲
FEC0000h - FECFFFFFh, FEE00000h - FEEFFFFFh	APIC Configurationスペース
FFE0000h - FFFFFFFh	High BIOS領域

図6.1 メモリマップ

I/Oポートアドレス

表6.1 I/Oポートアドレス

アドレス	サイズ	説明	
0000 - 000F	16 bytes	DMAコントローラ	
0010 - 001F	16 bytes	リザーブ	
0020 - 0021	2 bytes	PIC 割り込みコントローラ	
0022 - 003F	30 bytes	リザーブ	
0040 - 0043	4 bytes	システムタイマ1	
0044 - 005F	24 bytes	リザーブ	
0060	1 byte	キーボードコントローラ	
0061	1 byte	NMI、スピーカコントローラ	
0062 - 0063	2 bytes	リザーブ	
0064	1 byte	キーボードコントローラ	
0065-006F	11bytes	リザーブ	
0070 - 0073	4 bytes	RTC リアルタイムクロック	
0074 - 007F	12bytes	リザーブ	
0080 - 0090	17 bytes	DMA ページレジスタ	
00A0 - 00A1	2 bytes	割り込みコントローラ2	
00A2 - 00BF	28 bytes	リザーブ	
00C0 - 00DE	31 bytes	DMA コントローラ2	
00E0 - 00EF	16 bytes	リザーブ	
00F0 - 00FF	16 bytes	数値演算プロセッサ	
01F0 - 01F7	8 bytes	プライマリ IDE コントローラ	
0274 - 0277	4 bytes	リザーブ(ISA PnP)	
0279 - 0279	1 byte	リザーブ	
0290 - 029F	16 bytes	ハードウェアモニタ	
02A0 - 02A7	8 bytes	リザーブ (T.P Serial Port)	
02A8 - 02AF	8 bytes	リザーブ (Serial C)	
02B0 - 02B7	8 bytes	リザーブ (Serial D)	
02C0 - 02C7	8 bytes	リザーブ (Serial E)	
02C8 - 02CF	8 bytes	リザーブ (RS422/485 Port)	
02F8 - 02FF	8 bytes	Serial B	
0388 - 038D	6 bytes	リザーブ (FM synthesizer)	
03B0 - 03BB	12 bytes	Video (Monochrome)	
03C0 - 03DF	32 bytes	Video (VGA)	
03F6	1 byte	プライマリ IDE	
03F8 - 03FF	8 bytes	Serial A	
0400 - 04BF	191bytes	リザーブ	
04D0 - 04D1	2 bytes	割り込み設定レジスタ(Edge/level triggered PIC)	
0500 - 051F	32 bytes	リザーブ	
0800 - 088F	143 bytes	リザーブ	
0A79 - 0A79	1 byte	リザーブ	
0CF8 - 0CFF	4 bytes	PCIコンフィギュレーションレジスタ	
0CF9	1 byte	Turbo and reset control register	
4000 - 400F	16 byte	リザーブ(RAS)	

割り込みレベル一覧

表6.2 ハードウェア割り込みレベル(出荷時設定)

			(
種類	8259	優先順位	内容	ベクタ
NMI		高	-I/O CHK	02H
IRQ0	MASTER	1	タイマ0	08H
IRQ1	"		システム予約	09H
IRQ2	"		割り込みコントローラ2(スレーブ)	0AH
IRQ8	SLAVE		リアルタイムクロック	70H
IRQ9	"		システム予約	71H
IRQ10	"		未使用(ユーザー使用可)*2	72H
IRQ11	"		未使用(ユーザー使用可)*2	73H
IRQ12	"		未使用(ユーザー使用可)	74H
IRQ13	"		コ・プロセッサ	75H
IRQ14	"		プライマリ IDE	76H
IRQ15	"		未使用(ユーザー使用可)	77H
IRQ3	MASTER		シリアルポートB(Serial B)	0BH
IRQ4	"		シリアルポートA(Serial A)	0CH
IRQ5	"		未使用(ユーザー使用不可)*1	0DH
IRQ6	"	1	未使用(ユーザー使用可)*2	0EH
IRQ7	"	低	未使用(ユーザー使用可)*2	0FH

^{*1} 将来の機能拡張のために予約されたデバイスのため利用できません。

^{*2} シリアルポートとして利用できます。

POST⊐−ド

表6.3 POSTコード <1/5>

POST (hex)	説明
CFh	CMOS R/W機能を試験します。
C0h	早期チップセット初期化 ・シャドーRAMを無効化 ・L2キャッシュ(ソケット7以下)を無効化 ・基本チップセットレジスタのプログラム
C1h	メモリの検出 ・ DRAMサイズ、タイプ、ECC の自動検出 ・ L2キャッシュ(ソケット7以下)の自動検出
C3h	圧縮されたBIOSコードをDRAMに展開します。
C5h	チップセットフックを呼び出してBIOSをE000&F000シャドーRAMにコピーします。
0h1	物理アドレス1000:0に存在するXgroupコードを展開します。
02h	予約
03h	初期Superio_Early_Initスイッチ
04h	予約
05h	1. 画面表示の停止 2. CMOSエラーフラグのクリア
06h	予約
07h	1.8042インターフェイスのクリア 2.8042セルフテストの初期化
08h	1. Winbond 977シリーズSuper I/Oチップ用特殊キーボードコントローラのテスト 2. キーボードインターフェイスを有効にします。
09h	予約
0Ah	 PS/2マウスインターフェイス(オプション)を無効にします。 キーボードおよびマウス用ポートの自動検出、続いて、ポートおよびインターフェイススワップ (オプション)を行います。 Winbond 977シリーズSuper I/O chips用キーボードのリセット
0Bh	予約
0Ch	予約
0Dh	予約
0Eh	F000hセグメントのシャドーをテストし、R/W可能かどうかを調べます。テストに不合格ならスピーカでビープ音を鳴らします。
0Fh	予約
10h	フラッシュタイプを自動検出し、FSCDおよびDMIサポートのために該当するR/WコードをF000のランタイム領域にロードします。
11h	予約
12h	Walking 1のアルゴリズムを使用してCMOS回路のインターフェイスをチェックします。 また、リアルタイムクロックの電力状態を設定し、オーバライドをチェックします。
13h	予約
14h	チップセットのデフォルト値をプログラムします。 チップセットデフォルト値は、OEM顧客によってMODBINable化されています。
15h	予約
16h	・・・・
17h	予約
18h	ブランド名、SMIタイプ(CyrixまたはIntelR)、およびCPUレベル(586または686)を含むCPU情報を検出します。
19h	9。 予約
1911	עידין ן

表6.3 POSTコード <2/5>

POST (hex)	説明
1Ah 1Bh	予約 初期割り込みベクトル表。特に指定がない場合、すべてのハードウェア割り込みはSPURIOUS_INT_HDLR に向けられ、ソフトウェア割り込みはSPURIOUS_soft_HDLRに送られます。
1Ch	予約
1Dh	初期EARLY_PM_INITスイッチ
1Eh	予約
1Fh	キーボードマトリックスのロード(ノートブックブラットフォーム)
20h	予約
21h	HPM初期化(ノートブックプラットフォーム)
22h	予約
23h 24h 25h 26h 27h 28h	RTC値の妥当性をチェック: 例えば、5Ahの値は有効なRTC minuteの値 CMOS設定をBIOSスタックにロードします。CMOSチェックサムが不合格の場合は、代わりにデフォルト値を使用します。 PCIとPnP使用時にBIOSリソースマップを用意します。ESCDが有効な場合、ESCDのレガシー情報を考慮してください。 オンボードクロックジェネレータの初期化。各クロックリソースを無効にすると、PCI & DIMMスロットが空になります。 早期PCIがANo.を列挙・メモリとI/Oリソースを割り当てます。 ・有効なVGAデバイスとVGA BIOSを検索し、C000:0に投入します。 予約 予約 INT09バッファの初期化 予約 0・640Kメモリアドレスに対してCPU内部MTRR (P6とP11)をプログラムします。 PentiumクラスのCPUに対してAPICを初期化します。 CMOS設定に従った早期チップセットをプログラムします。例:オンボードIDEコントローラ CPU速度を測定
	Video BIOSを起動
2Ah	予約
2Bh	予約
2Ch	予約
2Dh	マルチ言語の初期化 Awardタイトル、CPUタイプ、CPU速度を含めた情報を画面表示します。
2Eh	予約
2Fh	予約
30h	予約
31h	予約
32h	予約
33h	Winbond 977シリーズSuper I/Oチップを除くキーボードをリセット。
34h	予約
35h	予約
36h	予約
37h	予約
38h	予約
39h	予約

表6.3 POSTコード <3/5>

POST (hex)	説明
3Ah	予約
3Bh	予約
3Ch	Test 8254
3Dh	予約
3Eh	チャネル1の8259割り込みマスクビットのテスト
3Fh	予約
40h	チャネル2の8259割り込みマスクビットのテスト
41h	予約
42h	予約
43h	8259の機能テスト
44h	予約
45h	予約
46h	予約
47h	EISAスロットの初期化
48h	予約
49h	1. 各64Kページの最後のダブルワードをテストして、合計メモリを計算します。
4911	2. プログラムが、AMD K5 CPU用の割り当てを書き込みます。
4Ah	予約
4Bh	予約
4Ch	予約
4Dh	予約
4Eh	 MI CPUのMTRRをプログラムします。 P6クラスに対してL2キャッシュを初期化し、適切なキャッシュ可能な範囲を持つCPUをプログラムします。 P6クラスのCPUに対してAPICを初期化 MPプラットフォーム上で、各CPU間のキャッシュ可能な範囲が一致しない場合、キャッシュ可能な範囲をより小さな範囲に調整
4Fh	予約
50h	USBの初期化
51h	予約
52h	すべてのメモリのテスト(すべての拡張メモリを0にクリアします)
53h	予約
54h	予約
55h	プロセッサ数を表示します(マルチプロセッサプラットフォーム)
56h	予約
57h	1. PnPロゴを表示します。 2. 早期ISA PnP初期化 各ISA PnPデバイスへのCSNの割り当て
58h	予約
59h	Trend Anti-Virusコードの組み合わせの初期化
5Ah	予約
5Bh	(オプション機能)FDDからAWDFLASH.EXEを実行するためのメッセージを表示します(オプション)。
5Ch	予約
5Dh	1. Init_Onboard_Super_IOスイッチの初期化 2. Init_Onbaord_AUDIOスイッチの初期化
5Eh	予約
	予約
5Fh	

表6.3 POSTコード <4/5>

POST (hex)	説明
61h	予約
62h	予約
63h	予約
64h	予約
65h	PS/2マウスの初期化
66h	予約
67h	関数呼び出し: INT 15h ax=E820hのためにメモリサイズ情報を作成します。
68h	予約
69h	L2キャッシュをオンにします。
6Ah	予約
6Bh	SetupおよびAuto configurationテーブルに記述されている項目に従ってチップセットレジスタをプログラムします。
6Ch	予約
	1.すべてのISA PnP装置にリソースを割り当てます。
6Dh	2. Setupの対応する項目がAUTOに設定されている場合にはオンボードCOMポートにポートを自動的に割り 当てます。
6Eh	予約
6Fh	1.フロッピーコントローラを初期化 2. 40:hardwareのフロッピー関連フィールドをセットアップ
70h	予約
71h	予約
72h	予約
73h	(オプション機能) AWDFLASH.EXEを入力: - AWDFLASHがフロッピードライブに見つかった場合 -ALT+F2を押している場合
74h	予約
75h	HDD、LS120、ZIP、CDROMなどの全IDE装置を検出しインストールします。
76h	予約
77h	シリアルポートおよびパラレルポートを検出します。
78h	予約
79h	予約
7Ah	コプロセッサを検出しインストールします。
7Bh	予約
7Ch	予約
7Dh	予約
7Eh	予約
7Fh	フルスクリーンロゴがサポートされている場合は、テキストモードに戻します。 ・エラーが発生した場合は、エラーを報告しキー入力を待機します。 ・エラーが発生しないか、 <f1>キーが押された場合は、続行します。 EPAまたはカスタマイズロゴをクリア</f1>
80h	予約
81h	予約
82h	1. チップセット電力管理フックを呼び出します。 2. EPAロゴ(フルスクリーンロゴではない)に使用されたテキストを回復 2. パスロードが歌空されている場合は、パスロードを悪力
0.01	3. パスワードが設定されている場合は、パスワードを要求
83h	スタックのすべてのデータをCMOSに保存します。

表6.3 POSTコード <5/5>

POST	説明
(hex)	נפיות
84h	ISA PnPブートデバイスを初期化します。
	USB最終初期化。
	NET PC: SYSID構造の構築
	S画面をテキストモードに切り替えます。
85h	メモリのトップでACPIテーブルを設定します。
0011	すべてのISAアダプタROMを呼び出し
	IRQをPCIデバイスに割り当て
	APM初期化
	IRQsのノイズをクリアにします。
86h	予約
87h	予約
88h	予約
89h	予約
90h	予約
91h	予約
92h	予約
93h	HDDブートセクタ情報を読み取ってTrend Anti-Virusコードを探します。
	L2キャッシュを有効にします。
	起動速度をプログラムします。
	チップセットの最終初期化
94h	電源管理の最終初期化
	画面とディスプレイの要約表を消去します。
	K6書き込み割り当てをプログラムします。
	P6クラスの書き込み合成をプログラムします。
95h	夏時間調整をプログラムします。
0011	キーボードLEDとキーのリピート速度を更新します。
96h	1. MPテーブルを構築します。
	2. ESCDを構築し更新します。
	3. CMOS世紀を20世紀または19世紀に設定します。
	4. CMOS時間をDOSタイムチックにロードします。
	5. MSIRQルーチンテーブルを構築します。
FFh	ブート試行(INT 19h)

SerialのI/Oアドレスとレジスタ機能

下記の表のI/OアドレスはSerial Aの場合です。

表6.4 I/Oアドレス

I/Oアドレス	DLAB	Read/Write	レジスタ	
03F8H		W	トランスミッタ・ホールディング・レジスタ	THR
	0	R	レシーブ・バッファ・レジスタ	RBR
	1	W	デバイサ・ラッチレジスタ(LSB)	DLL
03F9H	1	W	デバイサ・ラッチレジスタ(MSB)	DLM
	0	W	インタラプト・イネーブル・レジスタ	IER
03FAH	X	R	インタラプトIDレジスタ	IIR
03FBH	X	W	ライン・コントロール・レジスタ	LCR
03FCH	X	W	モデム・コントロール・レジスタ	MCR
03FDH	X	R	ライン・ステータス・レジスタ	LSR
03FEH	X	R	モデム・ステータス・レジスタ	MSR
03FFH	X	R/W	スクラッチ・レジスタ	SCR

DLAB (Divisor Latch Access Bit): モデム・コントロール・レジスタのbit7の値

表6.5 各レジスタの機能 <1/4>

THR: Transmitter Holding Register [DLAB=0]	I/Oアドレス	内 容
D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0	03F8H	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0	03F8H	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 bit0 LSB ボーレート設定レジスタ (MSB)	03F8H	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0	03F9Н	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
	03F9H	D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 0 0 0 0 ELSI ETHREI ERDAI 受信データ 割り込みイネーブル 上シーパラインステータス 割り込みイネーブル モデムステータス割り込みイネーブル

表6.5 各レジスタの機能 <2/4>

I/Oアドレス	内 容	
03FAH	IIR : Interrupt Identification Register	
	D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0	
	割り込み内容 1:割り込み発生なし 0:割り込み発生あり	
	bit2 bit1 bit0 優先順位 内容	
	0 0 1 ―― 割り込み発生なし	
	1 1 0 1(高) オーパーラン、パリティ、フレーミングエラー、または ブレーク割り込みで発生。 ラインステータスレジスタの読み出しでクリアされる。	
	1 0 0 2 レシーブバッファレジスタがレディで発生。レシーブ バッファの読み出しでクリアされる。	
	0 1 0 3 トランスミッタ・ホールディング・レジスタが空になると 発生。IIRのリードまたはTHRへの送信データ書き込み でクリアされる。	
	0 0 0 4(低) モデムステータス割り込みが発生。 (CTS、DSR、RI、CD) モデムステータスレジスタの読み出しでクリアされる。	
03FBH	LCR: Line Contror Regester	
OSFBH	LCR: Line Contror Regester D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 0:1 STOPビット 1:5bitの長のとき、1.5 STOPビット 6:7、8bit長のとき、2 STOPビット 1:バリティディセーブル 1:スティックパリティ ニーブル 1:スティックパリティイネーブル 0:エティックパリティイネーブル 1:スティックパリティティセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティティセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティディセーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティーオーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティア・オーブル 1:スティックパリティア・オープル 1:スティックパリティー 1:スティー 1:スティックパリティー 1:スティー 1:ス	

表6.5 各レジスタの機能 <3/4>

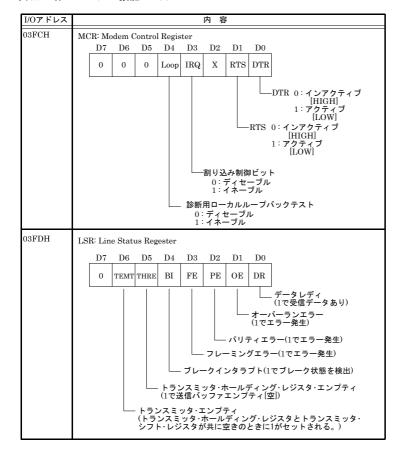
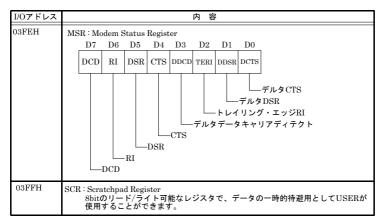


表6.5 各レジスタの機能 <4/4>



■ボーレートの設定

クロック入力を分周することによって、ソフトウェアでボーレートを設定します。ハードウェアとしては、SERIAL A, Bは115,200bpsまで設定可能です。実際に使用可能なボーレートは、使用環境(ケーブル、ソフトウェア等)により異なります。下表に代表的なボーレートとデバイザラッチレジスタ(LSB, MSB)に書き込む値の対応表を示します。

表6.6 ボーレートの設定

設定するボーレート	SERIAL A, B クロック入力(1.8432MHz)	
	分周レジスタに設定する値 (Decimal)	設定誤差(%)
50	2304	
75	1536	
110	1047	0.026
134.5	857	0.058
150	768	
300	384	
600	192	
1200	96	
1800	64	
2000	58	0.69
2400	48	
3600	32	
4800	24	
7200	16	
9600	12	
14400	8	
19200	6	
28800	4	
38400	3	
57600	2	
76800		
115200	1	
153600		
230400		

例)SERIAL Aを9600bpsに設定する場合は、デバイザラッチレジスタ(MSB)に00、デバイザラッチレジスタ(LSB)に12(10進)

を書き込みます。

ウォッチドッグタイマ

ウォッチドッグタイマは、工業用コンピュータシステムのロックアップ(異常停止)防止に対応した保護機能を提供します。ほとんどの工業環境には、コンピュータに悪影響を及ぼす重機、発電機、高電圧送電線、電圧降下などが存在します。例えば、電圧降下が発生すると、CPUは停止状態になるか、無限ループに陥って、システムロックアップが生じます。

ユーザーで作成されるアプリケーションソフト内でウォッチドッグタイマ機能を有効にし、アプリケーションソフトから設定されたタイムアウト間隔以内で定期的にウォッチドッグタイマを再トリガしない限り、内部ボード上のハードウエアリセット信号が自動的に発生します。

この機能により異常状態の発生時も、動作中のプログラムが通常の方法でリスタートできるようになります。

ウォッチドッグタイマには、255レベル(1-255秒)のタイムアウト間隔をソフトウェア設定できます。タイムアウト間隔には、2秒間の許容誤差があります。正常なシステム動作を維持するには、許容誤差を考慮してユーザー作成プログラムによりウォッチドッグタイマを再トリガしてください。

当社ホームページ[IPC-SLIB-01]内にウォッチドッグタイマのサンプルプログラムを収録しています。ウォッチドッグタイマのサンプルプログラムは、\\ *RasUtility*Samples*Moduleの「HWMandRTCut.zip」を解凍して参照ください。

例) タイムアウト間隔を30秒に設定した場合、許容誤差を考慮して28秒間が経過する前にユーザー作成プログラムによりウォッチドッグタイマを再トリガしてください。再トリガがされなかった場合(28-32秒間が経過した後)は、システムが自動的にリブートします。

I/Oポートはアドレス2e/2fHを使用します。タイマの起動を有効/無効にするには、アドレス2e/2fHへの書き込みを実行します。

ここでは、ウォッチドッグタイマの使用法に関するフローチャートとプログラミングの例を示しています。

(1) フローチャート例



※ 再スタート時に、[WDT Stop]→[WDT Start]を実行する代わりに[WDT Stop]を実行せず、連続して[WDT Start]を実行することも可能です。

(2) プログラミング例

次の例は、Intel8086アセンブリ言語で作成されたものです。

;=========
; <wdt initial=""></wdt>
;========
;
;Enter the extended function mode
;
MOV DX,2EH
MOV AL,87H
OUT DX,AL
OUT DX,AL
;
;Set WDT function at pin89
;
MOV DX,2EH
MOV AL,2BH
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
MOV AL,0DH
OUT DX,AL
;
;Select logical device WDT(number 8)
;
MOV DX,2EH
MOV AL,07H
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
MOV AL,08H
OUT DX,AL
;
;Activate logical device WDT(number 8)
;
MOV DX,2EH
MOV AL,30H
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
MOV AL,01H
OUT DX,AL
;
;Set timer unit : second
;
MOV DX,2EH
MOV AL,F5H
OUT DX AI

MOV DX,2FH
MOV AL,00H
OUT DX,AL
;
;Exit the extended function mode
MOV DX,2EH
MOV AL,AAH
OUT DX,AL
;======================================
; <wdt :="" a="" and="" counter="" set="" start=""></wdt>
;======================================
;
;Enter the extended function mode
; MOV DX,2EH
MOV AL,87H
OUT DX,AL
OUT DX,AL
:
;Select logical device WDT(number 8)
MOV DX,2EH
MOV AL,07H
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
MOV AL,08H
OUT DX,AL
:
;Set time of WDT and start to count down
;;set time of wb1 and start to count down
MOV DX.2EH
MOV AL,F6H
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
MOV DA,2FH :
,
;The data of an example is 15 seconds.(01H=1sec FFH=255sec.)
MOV AL,0FH ; 0FH = 15Sec.
OUT DX,AL
;
;Exit the extended function mode
MOV DX,2EH
MOV AL,AAH

OUT DX,AL
;=====================================
; <wdt stop=""> :=======</wdt>
;
;Enter the extended function mode
MOV DX,2EH
MOV AL,87H
OUT DX,AL
OUT DX,AL
;
;Select logical device WDT(number 8)
;
MOV DX,2EH
MOV AL,07H
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
MOV AL,08H
OUT DX,AL
;
;Stop count down of WDT
MOV DX,2EH
MOV AL,F6H
OUT DX,AL
MOV DX,2FH
;
;The data of 00H is stop WDT
MOV AL,00H
;
OUT DX,AL
;
;Exit the extended function mode
; MOV DX,2EH
MOV AL,AAH
OUT DX AL

⚠ 注意-

-タイマ間隔には±2秒の許容誤差があります。

CFの寿命

■書き換え寿命について

BX-110n-DCx3xx-C01に搭載しているCFは、使用しているメモリの特性上、書き換え回数に制限があります。書き換え寿命については、参考値として下記の計算式によって求めることができます。

書き換え寿命(回)=

全容量(MB)×100,000(回) / ファイルサイズ(MB)

例1:標準CF(2GB)に1MBのファイルを作成し、1秒間に1回書き換えた場合。

書き換え寿命=1920MB \times 100,000回 / 1MB = 192,000,000 (回)

寿命=192,000,000 / (3600 × 24 × 365) ≒ 6 (年)

あくまで参考値ですので、実際の寿命については下記S.M.A.R.T.にてご確認ください。

■S.M.A.R.T.について

TDKホームページより、CFのS.M.A.R.T.情報を取得できる自己診断プログラム「SMART」をダウンロードすることができます。このプログラムの使用により、以下の情報の取得が可能となります。

- 1. CF内部に搭載されているフラッシュメモリの個数および総ブロック数
- 2. CFへの書き換え回数総数
- 3. 最も書き換えが多く発生したブロックの書き換え回数
- 4. 最も書き換えが少なく発生したブロックの書き換え回数
- 5. 全ブロックの書き換え回数(10段階ヒストグラム)

NAND型フラッシュメモリの寿命は100,000回です。これに対し各ブロックが何回書き換えされているのかを把握することにより、寿命の予測が可能となります。

TDKホームページ:

http://www.tdk.co.jp

SMARTプログラムダウンロード先:

http://www.tdk.co.jp/memorycontroller/mem01000.htm

SMARTプログラム使用環境:

Windows 7/2000/XP

VB6.0ランタイム、MSFLXGRD.OCXコンポーネント(vb6rt330.exeなど)が必要です。



図6.2 S.M.A.R.T.

電池

■電池仕様

本製品に使用している電池は下記になります。

・品種 : リチウム1次電池

・型式 : BR-1/2AA・メーカー : パナソニック

・公称電圧 : 3V・公称容量 : 1000mAh・リチウム含有量 : 1g以下

■電池の取り外し

下記記載を参照し、電池を取り外してください。

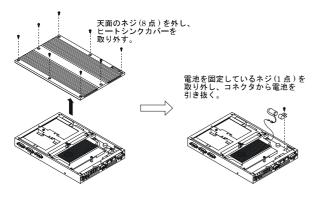


図6.3 電池の取り外し指示図

■電池の破棄

取り外した電池を廃棄される場合には自治体の指示に従って適切に廃棄してください。

第7章 オプション品一覧

<共通>

■ACアダプタ

IPC-ACAP12-04A*1
 ACアダプタ(入力: 100-240VAC、出力: 12VDC 4A)

*1 ACアダプタ添付の固定ブラケットを用いて本体に装着することはできません。

■取り付け金具

BX-BKT-VESA02
 VESA対応取り付け金具(「75×75」、「100×100」)

■CFカード

CF-1GB-B コンパクトフラッシュ 1GB(FIX DISK仕様)
 CF-2GB-B コンパクトフラッシュ 2GB(FIX DISK仕様)
 CF-4GB-B コンパクトフラッシュ 4GB(FIX DISK仕様)
 CF-8GB-B コンパクトフラッシュ 8GB(FIX DISK仕様)

■ハードディスク

・ PC-HDD100S SATAハードディスク 100GB

■シリコンディスク

PC-SSD2000S SATA SSD 2GB
 PC-SSD4000S SATA SSD 4GB
 PC-SSD8000S SATA SSD 8GB

■TFTカラー液晶ディスプレイ

<アナログRGB入力仕様>

FPD-L21ST-AC (12.1インチ800×600ドット、パネルマウント用)
 FPD-M21VT-AC (10.4インチ640×480ドット、パネルマウント用)

■PCI Express Cable方式 PCIバス拡張シャーシ

ECH-PCI-CE-H2C ショートサイズのPCIバスボードが2枚実装可能

■Cable Express用ケーブル*3

・ CB-CE-1 Cable Expressケーブル(1m)
・ CB-CE-3 Cable Expressケーブル(3m)

*3 PCI Express Cable方式の当社製拡張シャーシと接続するためのケーブルです。 下記拡張シャーシが接続可能です。

ECH-PCI-CE-H2B, ECH-PCI-CE-H2C, ECH-PCI-CE-F2B, ECH-PCI-CE-H4B, ECH-PCI-CE-F4B, ECH-PCI-CE-H4A, ECH-PCI-CE-H7A, ECH-PCI-CE-H13A, ECH-PE-CE-H2B, ECH-PE-CE-F2B

^{*2} Cable Express用ケーブル CB-CE-1またはCB-CE-3が別途必要です。

改訂履歴

年 月	改訂内容
2012年11月	BX-110n-DC6124-C01の内容を追加
2017年6月	ディスプレイインターフェイス部の改訂

BX-110nシリーズ用 ユーザーズマニュアル

BX-110n-DCxxxx-C01

発行 株式会社コンテック

2017年6月改訂

大阪市西淀川区姫里3-9-31 〒555-0025

日本語 http://www.contec.co.jp/ 英語 http://www.contec.com/ 中国語 http://www.contec.com.cn/

本製品および本書は著作権法によって保護されていますので無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

[10112011]分類番号NA01600[06062017_rev3]部品コードLYNJ323